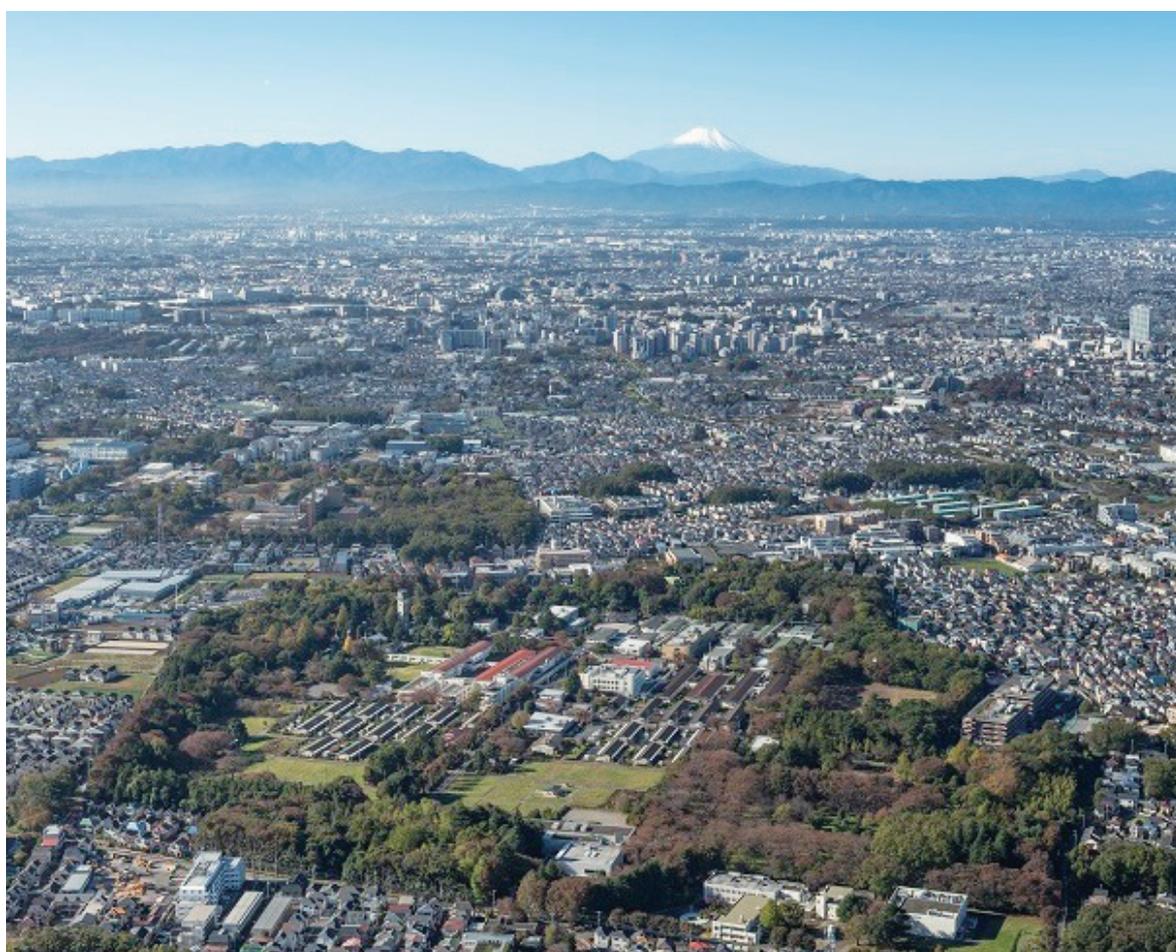


# 令和5年度年報

(2023年度)



国立療養所多磨全生園

# 令和5年度年多磨全生園年報発刊に寄せて

国立療養所多磨全生園 園長 鷓飼 克明

令和5年度の年報を発刊するにあたり、ご挨拶を申し上げます。

はじめに、令和6年元日に発生した能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、そして、ご遺族や被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の支援に尽力された方々、そして今なお復興に向けて尽力されている方々に心より敬意を表します。

さて令和5年度年多磨全生園は、副園長不在での船出となりました。そこで4月に園長特任補佐を配置し、さらには5月に感染症を専門とする特命副園長を迎え入れ、全く新しい体制で大海原に乗り出しました。目指すはもちろん施設理念の実現で、スローガンとして「入所者の笑顔、そして職員の笑顔のために」を掲げました。原動力となる3本柱は、①人生サポートの充実、②新型コロナ「5類」移行後の園内感染対策、③組織で行う改善活動としました。その経緯と、取り組みのアウトラインを以下に記します。

令和5年3月末時点の入所者は、平均年齢は87.8歳、総数は105名、その内訳は病棟が20名、不自由者棟が54名そして軽症者棟が31名でした。入所者は超高齢となりましたが、約8割が居室（不自由者棟ならびに軽症者寮）で生活していました。この入所者一人ひとりが「笑顔で暮らす」ためには、医療・看護・介護に加えて“人生サポートの充実”が重要と考えました。そこで令和5年4月には、園長特任補佐を人生サポート推進室長に配置するなど体制を強化しました。その上で、これまでの取組（ライフサポートノートなど）を更に前進させることとし、また規程類の見直しやケアカンファの導入などプロセスの強化にも着手しました。令和6年度には良好なアウトカムが生み出されるものと確信しています。

令和5年5月、COVID-19の感染症法上の分類が「5類」に引き下げられ、コロナの軛から解き放たれて、社会は制限緩和に向かって大きく動き出しました。しかし、超高齢でしかも様々な合併症を抱える入所者の安全を考えれば、さらには入所者の不安が強いこともあって、当園では慎重に動き出さざるを得ませんでした。ちょうど5月に感染症を専門とする特命副園長が着任したので、入所者の安全・安心に配慮した細やかな感染対策を実施しつつ外出・外泊、面会そして様々なイベントの制限緩和を開始しました。令和5年9

月の第9波、本年1月の第10波の影響を当園も受けましたが、幸いに入所者への感染は抑えられ、もちろん重症者を出すことなく、緩和に向けて動き続けました。本年3月には感染状況に応じた園内対策の作成にも漕ぎ着けましたので、令和6年度には、これまで以上に穏やかな療養生活を送れるものと考えています。

ところで当園は令和6年9月には開設115周年を迎えますが、当園および入所者自治会にはこの長い歴史に裏付けられた様々な慣例が存在しています。また入所者の半数以上が50年以上の長きにわたって在園していますので、例えば20年以上も前のことが決して“過去”ではなく現実となって存在しています。一方、園幹部は数年で変わらざるを得ず、それゆえ、「慣例と規程」や「過去と現実」の乖離が生じることがあります。円滑な園運営のためには、これらのギャップを埋め、そして個人の知識や経験だけに頼ることのない「継続性・連続性」を意識した取り組みが必要と考えました。そこで、“組織で行う改善活動”すなわちTotal Quality Management (TQM) の手法を取り入れることにしました。具体的には、文書管理、PDCAサイクルを意識した目標管理とマネジメントレビューの導入、そして「入所者中心・プロセス重視・全員参加」の原則を意識したケアカンファの導入などです。そしてこの取り組みを成功させるために「心理的安全性」も導入しました。これらの取り組みはまだまだ緒に就いたばかりですが、次第に全生園の文化となって根付くことを期待しています。

この年報には、新しい体制における多磨全生園の一年間の航跡、すなわち「入所者の笑顔、そして職員の笑顔」を目指した医療・看護・介護・人生サポート、事務部門そして看護学校における取り組みなどが記録されています。この小冊子を通し、多磨全生園の現状と、これから目指す方向性をご理解頂ければと願っています。また私たち職員は、毎年自らの航跡を振りかって省察し、施設理念の実現に向かって前進し続けたいと考えています。

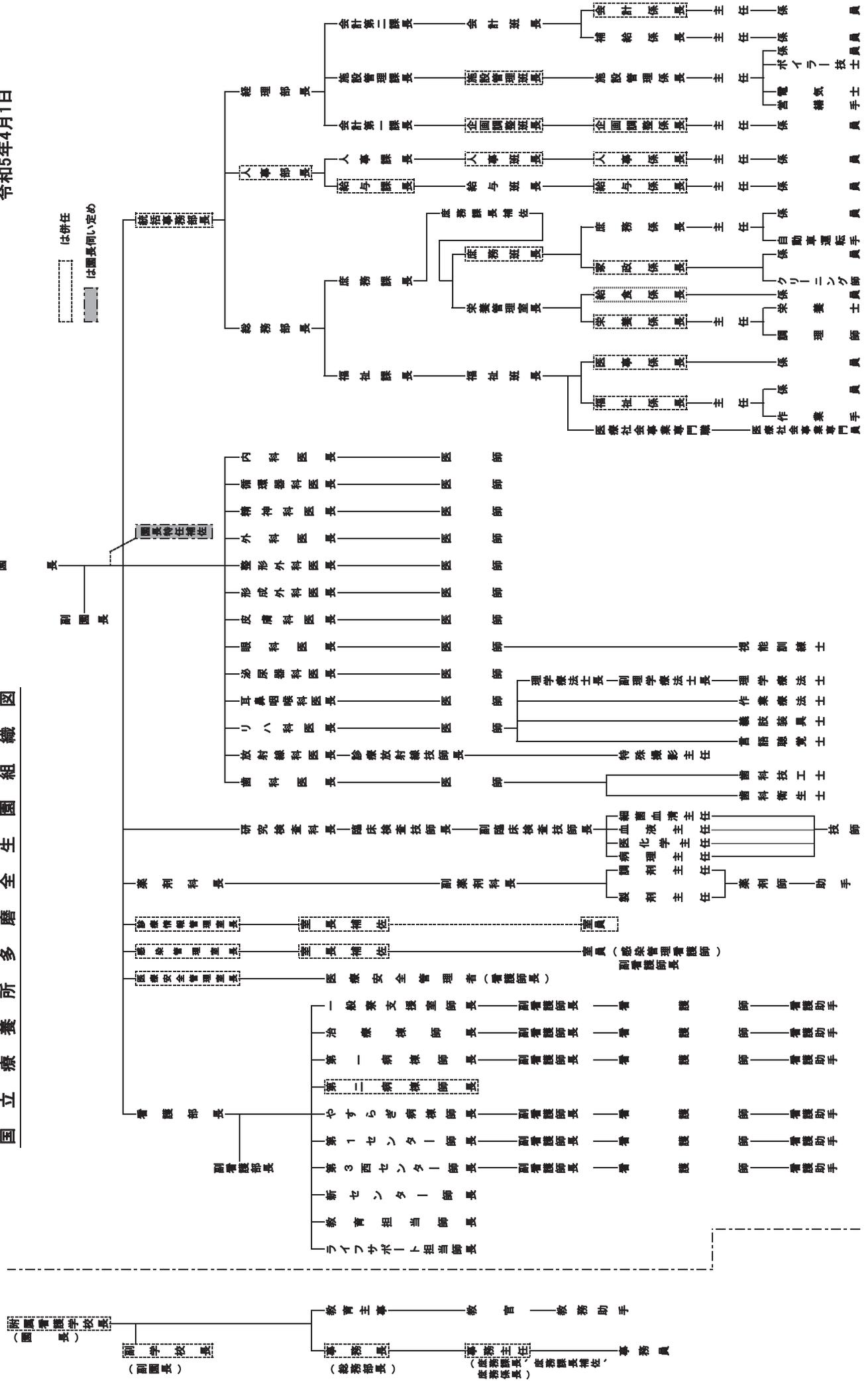
最後に、発刊に向けて準備をして頂いた各部門の方々に心より感謝申し上げ、巻頭の言葉と致します。

令和6年10月

# 国立療養所多磨全生園組織図

## 国立療養所多磨全生園組織図

令和5年4月1日



## 施設理念

当園は、入所者一人ひとりが心の安らぎを得て療養できる環境を提供し、生きていることの充実感が満たせるように医療・生活の充実をはかります。

## 基本方針

- ◎ 入所者の目線にたった安心で信頼される医療を提供します。
- ◎ 入所者の権利（知る権利・自己決定権・プライバシー）を尊重します。
- ◎ 快適な生活環境の場を提供します。
- ◎ 職員の教育・研修に努めます。

## 患者（入所者）の権利

- ◎ 人格を尊重した医療を受ける権利
- ◎ 医療に関する十分な説明を受ける権利
- ◎ 個人情報保護の権利
- ◎ 診療情報の提供を受ける権利
- ◎ 検査や治療等の自己決定の権利

# 国立療養所多磨全生園の組織目標

## 【今期（令和5年度）の組織目標】

施設名：国立療養所多磨全生園

	内容	推進する上での課題
1	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【国立療養所多磨全生園の将来のあり方の推進】</b>                      ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等）について入所者等と十分調整を行い、将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者の意見を尊重し、入所者と話し合いを十分に行った上で検討。</li> <li>・地方自治体、地域住民との調整。</li> <li>・必要に応じ、本省と調整。</li> </ul>
2	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【職員確保対策の推進】</b>                      入所者へのサービス提供体制の維持・向上を図るために必要となる職員を確保するとともに、離職防止策を推進する。特に看護師及び看護助手（介護員）について年度途中での離職が生じた場合は、速やかに募集活動を行い欠員解消を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設全体で各部門の職員確保・離職防止策を実施。</li> <li>・積極的な募集活動実施、就職説明会の参加、学校、周辺医療施設等へ呼びかけ。</li> <li>・必要に応じ、本省と調整。</li> </ul>
3	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【職員の知識・技術の向上の推進】</b>                      入所者のハンセン病後遺症及び高齢化による認知症や手足等の障害に対する医療・看護・介護の充実、コンプライアンスの徹底、職員研修・勉強会の開催、施設内外研修等への積極的な参加等を図る。                      （医療安全管理研修会年2回開催、感染対策研修会年2回、ハラスメント（セクハラ・パワハラ・マタハラ）研修会年1回開催し、参加率は100%を目標とする）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が参加できる研修計画の企画・立案による実施。</li> <li>・全職員（新規採用者含む）が、ハンセン病に対する正しい理解を深め、医療・看護・介護の充実に繋げるための研修内容の見直し。</li> </ul>
4	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【令和5年度予算の適正な執行、施設整備・支出・給与業務一元化の実施等】</b>                      施設・医療機器設備の年間整備計画に基づき、計画的かつ適正な予算執行を行う。                      また、国立ハンセン病療養所に係る施設整備、経費の支出及び職員の給与の支給を適切に行うための方策の実施等を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設全体における施設・設備整備の進捗状況を共有し、効率的・計画的なスケジュール調整を行い、早期執行に努める。</li> <li>・自治会及び本省との事前調整。</li> <li>・各施設の実態把握、委託業者等との調整及び試行等。</li> </ul>
5	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【職員の健康管理の改善、ワークライフバランスの推進】</b>                      定期健康診断後の健康管理医指導等を徹底し、年次休暇取得、超過勤務縮減を促進する職場環境作り、特定保健指導・メンタルヘルス・病気休暇取得者等への積極的な支援（相談、復帰等）を行う。                      育児・介護に伴う制度活用が円滑に取得できる職場環境作りを行う。                      （ドック・健康診断受診率100%、各職員付与年次休暇（繰越分除く）取得率80%、超過勤務時間数の対前年度減）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員の定期健康診断結果の把握、指導体制の確立。</li> <li>・年次休暇取得促進、超過勤務縮減のための組織的点検・分析による各職場長へのフィードバック。</li> </ul>
6	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【看護・介護体制の充実】</b>                      入所者の看護・障害度に応じた体制整備と職員配置に再編成し、看護・介護サービス提供体制を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者の意見を傾聴し、入所者の理解を得ながら、個々の看護・障害度に応じた看護を行う体制及び職員配置を行う。</li> <li>・再編に向け、看護職員の協力と理解を得る。</li> <li>・必要に応じ、配置職員の確保等について本省と調整。</li> </ul>
7	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【人生サポートの支援】</b>                      人生サポート推進室を中心とした多職種協働による活動体制の確立により、入所者から終末期対応における意向を確認し、記録を刷新する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員・入所者への協力依頼と事前周知方法。</li> <li>・聞き取り者選定、グループ編成。</li> <li>・既存データとの整合性、継続性の尊重。</li> </ul>

## 【職員の能力向上のための取り組み】

	内容
人材育成・組織活性化	<p>入所者のハンセン病後遺症及び高齢化による認知症や手足の障害増加にあわせた医療・看護・介護が実践できるよう、職員研修・勉強会を開催するとともに、施設内外研修への積極的な参加を促進する。(再掲)</p> <p>医療安全管理研修会年2回開催、感染対策研修会年2回開催、ハラスメント(セクハラ・パワハラ・マタハラ)研修会年1回開催し、参加率は100.0%を目標とする。(再掲)</p>
実態把握能力	<p>入所者へのサービス提供体制の向上に必要な職員の確保を行うために、各部門毎に職員の欠員理由を分析し、対応策を検討する。(再掲)</p> <p>施設・設備の整備計画に基づき、計画的かつ効率的に予算を執行する。(再掲)</p>
新政策企画・立案能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方(地域開放等:災害時協定含む)について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。(再掲)</p> <p>国立ハンセン病療養所に係る施設整備、経費の支出及び職員の給与の支給を適切に行うための方策の実施等を行う。(再掲)</p>
政策検証能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方(地域開放等:災害時協定含む)について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。(再掲)</p>
コミュニケーション能力	<p>管理診療会議等における伝達事項(職員周知の必要事項)などを、誰もが理解しやすい簡潔かつ明瞭な表現となっているか自己点検する。また、職場長は平日頃の業務を通じて、部下に対し丁寧に、かつ、わかりやすく直接説明するように心がけ、また、確実に全職員に伝わるよう園内LAN、各種ミーティング、資料回覧等を活用し、迅速かつ正確に情報共有を行う。</p>
コスト意識	<p>園内配布物等は原則両面白黒コピーとし、常に全職員が節約に心がける。後発薬品の使用割合については85%を目標として、薬事委員会等で周知し、実現に向け努力する。</p>
業務改善能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方(地域開放等:災害時協定含む)について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。(再掲)</p> <p>事務職員の人材育成に向けた研修会を、年数回、定期的に開催し、個人毎のスキルアップを図る。</p>
リスク対応能力	<p>全職員に法令遵守の徹底を働きかけ、問題発生を未然に防止する。仮に、問題が発生した場合は、職員は速やかに職場長や担当部署へ報告・相談することを徹底する。また、園内で対応を検討し処理するうえで、内容によって本省に迅速に報告し、対応を協議する。</p> <p>機会あるごとに制度の周知、公務員倫理研修会の実施及び事務部門における法令遵守自己点検を行い、取り組みを強化する。</p>

# 目 次

- ・年報発刊によせて（園長 鷓飼 克明）
- ・国立療養所多磨全生園組織図
- ・施設理念・基本方針・患者（入所者）の権利
- ・国立療養所多磨全生園の組織目標

I	活動報告	1
	1. 諸会議開催状況	3
	2. 診療部門	4
	3. 看護学校	38
	4. 新型コロナウイルス感染症への対応	40
II	行事・園外からの受入、研修等報告	43
	1. 園主要行事	45
	2. 主要な視察状況	46
	3. 看護学生実習・施設見学・研修等施設利用許可状況	47
	4. ボランティア受入状況等	52
	5. 研究活動、研修参加、倫理審査委員会状況	53
	6. 規程の改訂状況	65
III	統計資料	67
	1. 職員定数・現員、永年勤続授賞者等	69
	2. 経理関係	73
	3. 入所者関係	74
	4. 治療棟診療科受診者数	80
	5. 診療統計関係	81
	6. 医療事故分析報告	89
	7. 看護学校関係	91



# I 活動報告



## 1. 諸会議開催状況（令和5年度）

会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理診療会議	4月27日	5月25日	6月29日	7月27日		9月28日	10月26日	11月30日	12月21日	1月25日	2月22日	3月28日
園内感染対策委員会	4月27日	5月25日	6月29日	7月27日	8月24日	9月28日	10月26日	11月30日	12月21日	1月25日	2月22日	3月28日
幹部会議	4月4日	5月9日	6月6日	7月4日		9月5日	10月3日	11月7日	12月5日	1月16日	2月6日	3月5日
	4月18日	5月23日	6月20日	7月18日		9月19日	10月17日	11月21日	12月19日	1月30日	2月20日	3月19日
医療安全管理委員会	4月20日	4月18日	6月15日	7月20日	8月17日	9月21日	10月19日	11月16日	12月20日	1月18日	2月15日	3月21日
薬剤委員会		5月22日		7月24日		9月25日		11月27日		1月22日		3月25日
褥瘡委員会	4月17日	5月15日	6月12日	7月10日		9月7日	10月23日	11月13日	12月11日	1月22日	2月19日	3月11日
NST委員会	4月6日	5月11日	6月1日	7月6日		9月7日	10月5日	11月2日	12月7日	1月4日	2月1日	3月7日
献立委員会	4月25日	5月23日	6月27日	7月25日		9月26日	10月31日	11月28日	12月26日	1月23日	2月27日	3月26日
栄養管理委員会	4月25日			7月25日			10月31日			1月23日		
公共調達委員会						9月19日		11月6日		1月31日		
臨床検査委員会												3月6日
健康安全管理委員会						9月13日						
輸血療法委員会						9月25日						3月25日
保育所委員会	4月20日			7月20日		9月21日		11月22日		1月18日		3月21日
診療情報等管理委員会				7月5日								
中央材料室運営委員会												
医療倫理委員会												
倫理審査委員会												
看護学校運営会議		5月16日				9月21日	10月13日	11月21日		1月31日	2月8日	3月12日
病理検体の管理等に関する委員会		5月16日	6月13日					11月30日				
ハラスメント調査委員会												
将来構想委員会												3月22日
施設懇談会	4月13日	5月18日	6月8日	7月13日		9月14日	10月12日	11月9日	12月14日	1月15日	2月8日	3月14日

## 2. 診療部門

# 内 科

内科医長 汐崎 祐

### 1 診療体制

#### (1) 外来の状況

令和5年度から内科医師の新規採用により、内科外来を平日に週を通じて開けるようになった。専門外来はリウマチ科外来を前年度と同様に隔月に1回の割合で実施した。

#### (2) 病棟の状況

急性期疾患は1病棟、認知機能や身体機能の低下による生活上の問題での入院はやすらぎ病棟で対応する方針は前年度と同様であった。

1病棟への年度内の新規入院件数は53件（他科との併診を含む）であり、そのうち近隣医療機関との連携により侵襲的治療を行った症例は、腹壁癒痕ヘルニア、大動脈弁狭窄症、脊柱管狭窄症、大腿骨転子部骨折、子宮脱等があった。

新型コロナウイルス感染症で11名が年度内に入室したが、死亡例はなかった。

### 2 診療スタッフ

特命副園長	岡 慎一	内科医長	村上 龍司
内科医長	後藤 義孝	内科医長	汐崎 祐
内科医師	加藤 知子	内科医師	湯浅 園子
非常勤医師	大滝 純司	非常勤医師	小田 智三（感染症）
非常勤医師	中嶋 京一（リウマチ）		

### 3 診療内容

前年度と同様に高血圧、高脂血症、糖尿病などの慢性疾患を主たる対象として診療を行っている。本年度の入所者検診で82名の内科検診を実施した。また、今年度から金曜日に感染症ラウンドおよびコンサルテーションが実施された。

### 4 1年間の経過と今後の目標

昨年度に今年度の目標としていた学術活動については第96回日本ハンセン病学会総会・学術大会で1件の演題発表を行っており、令和6年度も充実させたい。また、年度末に筋電計が更新された。末梢神経の障害を定量的に評価することができるため、次年度以降の診療に役立てたい。

# 外 科

外科医長 白井 律郎

外科外来では、以前より手・足の創の予防と治療、熱傷や肛門疾患の診断・治療のほか、外科的救急疾患患者さんへの対応、外科検診などを主たる業務としてきた。同時に、手足の慢性創などで治療を受けていた患者さんが、創の治癒後にセンターなどで予防処置を継続中に新たに問題を生じた場合、再び外科治療を行ったのち改めて生活区域での処置に移行するための診療も行ってきた。

本年は、来年度の外来棟の移転に先立ち、外科外来に保存されていた書類や医療機材などの物品を整理することを目標の一つとし、不要な物品は返却ないし廃棄することで、多くのスペースを新たに確保することが可能となった。ステープラーや縫合糸・針など、外科外来でのみ使用してきた物品についてはとりあえず保管を継続することとし、今後、他科での使用の可能性についてさらに検討することとした。

当科では従来、生活区域の看護師と適切な情報交換を行って、治療棟と生活区域における医療を標準化させることを目標としてきた。このことにより、創傷などの処置は可及的にセンターなど生活区域へ移行させ、患者さんの受診回数を最小限にとどめて患者さんの負担を軽減するよう心掛けて来た。本年度に入ってから、以前よりの慢性および再発性の創傷に対する治療が奏功し、すべての患者さんの創傷の継続的な治癒が得られており、処置は基本的に生活区域へ依頼し、多くの患者さんの外来受診を二週間に一度程度にとどめることが可能となっている。今後、生活区域での処置の自立性をさらに高め、外来受診はほぼ必要としない状態とすることを視野に入れて、センター等の看護師たちとの連携を深めているところである。

# 整形外科

齊藤 誠人

令和5年度の整形外科外来の中心は、これまでと引き続き、患者さんの一般診療と健康管理となっている。一般診療は、整形外科一般と各医師の専門性を生かした診療を行っている。専門性は、脊椎、関節、腫瘍などの分野に分かれており、それぞれの専門性を生かし、時にはお互いに連携をとりながら診療に当たっている。

外来を受診される理由は大きく2つに分けられ、1つ目は非外傷性の疾患であり、2つ目は外傷であった。1つ目の理由で受診される方の主訴としては、頸部痛、腰痛、膝関節痛、肩関節痛などが多く、これらの症状の多くは、変形性頸椎症、変形性腰椎症、変形性膝関節症、変形性肩関節症など加齢に伴うことが原因で生じる変性疾患であった。また、加齢に伴う変性疾患だけではなく、長年の末梢神経障害を起因とした関節の変形の進行や、末梢神経障害による皮膚および軟部組織感染・潰瘍への度重なる治療の結果としての関節変形を呈している患者さんも多く見受けられた。慢性的な変性疾患については、鎮痛剤の内服、外用をベースとしつつ、疼痛の程度によっては必要部位への鎮痛目的の注射を行いながら、外来通院をしていただいている。関節変形が高度でこれらの対応での疼痛コントロールが困難な場合は、術後に十分なリハビリテーションを行えると考えられる患者さんには人工関節置換術の適応を検討することになる。皮膚・軟部組織感染・潰瘍の患者さんには、皮膚科医師に相談、ご助言頂きながら診療に当たっている。

2つ目の外傷での受診は多岐に渡るが、骨折が多く、その中でも脊椎の圧迫骨折と大腿骨近位部骨折は、入院・手術が必要となる骨折であり、患者さんのADLを低下させる可能性が非常に高く、影響の大きい骨折といえる。脊椎圧迫骨折は、椎体の圧壊の進行と隣接椎体の連鎖的な圧迫骨折を防ぐため、治療としての臥床が要求され、体幹コルセットを長期間着用することを強いられることになる。大腿骨の近位部骨折は、基本的に手術が必要となるが、近年高齢化も大きな原因ではあるが、様々な合併症を抱える患者さんも多いこともあり、心肺機能が手術に耐えられないと判断された場合、他院にて手術を断られるケースも出てきており、患者さんの疼痛コントロールに苦心するとともに、今後の歩行機能の再獲得をあきらめなければならないというケースが散見された。

いずれのケースでも、高齢化が進んでいる患者さんのADLの低下をどれだけ防ぐことができるかが重要であり、疼痛のために動きたくない、動かさないという状態を減らせるよう、できる限りの疼痛コントロールを行いながら、体力・筋力の低下そして廃用の進行を防ぐことが必要である。外来、入院にかかわらず、リハビリテーションは運動器疾患において非常に重要な部分を占めており、リハビリテーション科医師、OT、PTさん、病棟外来看護師、装具士さんのご協力のもとすでに多くの患者さんへの介入を行って頂いているが、今後もより一層連携を深めていくことを心がけたい。

また、特に骨折予防という観点から、骨粗鬆症への対応が非常に重要な課題となっている。心肺機能の影響で手術ができない場合、強固な固定ができず、除痛に難渋することになる。そのような患者さんを減らすためにも、まずは骨折を予防するということが重要となる。当科では年に1-2回、骨密度の測定検査を行っている。骨密度の検査は非侵襲的であり、整形外科を定期的を受診されている患者さんには積極的にお声がけして検査を受けて頂いている。これからも引き続き、骨粗鬆症と骨折リスク、そして骨折予防の重要性についての啓発を行っていく予定である。

# 専門医皮膚科

木村 真衣

令和5年度の皮膚科外来で多く見られた疾患は、昨年度と同様、胼胝、胼胝下潰瘍、外傷、熱傷、白癬、カンジダ性指間びらん症、皮脂欠乏性皮膚炎です。微小な傷からの二次感染や蜂窩織炎も数例ありました。

ハンセン病回復者は知覚鈍麻のために外傷・熱傷を繰り返し、2次感染を合併することもあり、難治性皮膚潰瘍に進展することも少なくありません。様々な外用剤を駆使しても、肉芽組織はなかなか増殖せずに創傷治癒は遅延することが多く、わずかに増生した肉芽組織を温存するため、膿瘍や壊死組織のデブリドマンを必要最小限にし、できるだけ保存的に根気強く加療することが重要です。

また胼胝や潰瘍の原因として、手足の変形や、それに伴い靴や装具が患部を圧迫するなどの外的要因が多く、多職種と連携し装具調整などを適宜依頼しながら治療をしております。

令和5年のハンセン病国内新規患者は4例で、すべて在日外国人でした。当科では主治医の先生からの依頼があれば、可能な限り当該医療機関に出張し、診察、スメア検査、組織の特殊染色を施行し、PCR検査をハンセン病研究センターに依頼します。令和5年も豊橋市民病院など、数名の診療依頼がありました。今後も一般医療機関への診療協力を継続します。

# 眼 科

杏林アイセンター  
非常勤眼科医師 赤羽 麻祐子

眼科は非常勤体制で独立行政法人国立病院機構 埼玉病院および杏林大学医学部眼科学教室の医師で行っております。月曜日と水曜日は杏林大学医学部眼科学教室より慶野教授、火曜日は埼玉病院より南雲医師と視能訓練士、木曜日は赤羽が担当しております。

眼科の受診者は施設内の100人程度で、主にハンセン病の眼後遺症による外眼部障害で、その病態は兔眼や兔眼性角膜炎に伴う角膜混濁や角膜らい腫による角膜混濁、帯状角膜変性症であります。その他は加齢に伴う白内障やぶどう膜炎に続発する白内障、微細な炎症に伴う慢性虹彩毛様体炎が見られます。またハンセン病患者による眼科領域への影響について前任の重安医師が2019年に日本眼科学会雑誌に詳細に報告しております。

現在、当科は非常勤体制で手術加療は行っていない為、白内障手術の希望患者には東京都立病院機構 多摩北部医療センターや国立病院機構 東京病院にご協力いただいております。また近隣の先生方には緊急時のご対応をいただき、感謝申し上げます。引き続きよろしく願いいたします。

# 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科医長 中井 淳仁

平成20年度以降医長1名のみで診療を行っている。専門医資格更新に必要な学会出席のため、年に数回休診とさせていただいている。

入所者数の減少に伴い、1日に当科で診療する患者数は15名以下のことが多くなり、ゆるやかな減少傾向が続いている。

診療の内容としては、かなりの部分がハンセン病の後遺症である萎縮性鼻炎に関係した鼻腔の清掃で、残りは、一般の高齢者に見られる難聴・中耳炎・鼻副鼻腔炎・咽喉頭炎・嚥下障害などへの対応である。また、認知症などの患者を対象に定期的な耳垢除去を行っている。

以前より難聴の入所者には補聴器をお勧めしているが、今年度新規の購入者は1名であった。

入所者検診を、今年度は61名に対して行った。

年2回の職員検診では、約40名を対象に聴力検査を行っている。

付属看護学校の学生の検診を年1回約20名に行っている。

引き続き各不自由者棟等での誤嚥・窒息対策の講習も行っている。

手術その他の専門的医療が必要な症例や専門家の診断を仰ぎたい症例については、適宜疾患分野に応じた専門家のいる医療機関へ委託診療を行うこととしているが、本年度は対象例がなかった。

# リハビリテーション科

リハビリテーション科医師 紙本 貴之

2023年度はリハビリテーションの処方、生活指導、義肢・装具の調整、家屋調査などを中心に業務をさせていただいておりました。ハンセン病にともなう末しょう神経障害による感覚障害や運動麻痺などがある中で、筋力低下、関節可動域制限などがあり、さらに重複する内科的疾患や整形外科的な疾患、創などに合わせて適切な理学療法、作業療法、言語聴覚療法を組み合わせるリハビリテーションおよび装具の処方を行いました。徐々に園内居住者の方々の高齢化が進んできているため、リハビリの負荷や頻度を調整しながらも、生活の質を落とさないように支援を行いました。また外来で、年に一回の検診および定期評価として、歩行能力やバランス能力、下肢筋力を評価しておりました。

必要に応じて内科や整形外科から骨折や肺炎、心不全などの急性期疾患に対するリハビリテーションとして、安静度や負荷量を設定しリハビリテーション処方や嚥下機能に合わせた食形態の調整、退室時の能力に合わせた家屋環境調整などを行いました。

食事に関しては、栄養科と協力をして粥ゼリーという形態ができ、活用される場面が増えてきております。おかゆの栄養素はそのままにして、たとえ固形物が飲み込みにくくなっても、ゼリーのように食べやすい状態になっています。その他様々な補助食品があるので、我々にご相談いただければ様々なご提案ができると思います。検診では、ご希望のある方には、嚥下機能の評価を実施させていただくようになりましたので、最近よくむせるなどか気になることがあれば気軽にご相談ください。

また、コロナウイルスの蔓延により人々の活動量減少が世界中で見られました。イベントなどが行われなくなってしまうため、家の中や部屋にこもってしまう時間がどうしても長くなってしまいます。不活動を少しでも減らすためにリハビリテーションはとても重要な役割を担っていると考えています。また、リハビリテーション治療はどうしても、人が集まり人と人が接しながら治療をする場面が多くなるため、感染リスクが非常に高くなるため危険と判断されてしまい、また不要不急なのではないかという声も上がっていました。しかし、我々も十分に感染対策に配慮し、入所者の皆様に継続して訓練を行っていただけるように心がけておりました。入所者と職員の皆様の皆様のご協力もあり、大きなクラスターなどの発生がなくリハビリを続けることができたことはとても良かったと思います。

# 理学療法部門（PT）

定員：定員枠6名

理学療法士長1名（鈴木）、理学療法士5名（崎野、高田、時任、於久、佐々木）

PT時任は再任用となり今年度から31時間の勤務形態で1年が経過した。他PT 1名は6月から1月末まで7か月弱の病気休暇を取得し2024. 2月から復帰した。その他、育児休暇や介護休暇等を取得した科員はいなかった。PT崎野は人事異動の内示後、退職の希望を示し年休消化の後に3月末で退職した。

## 【理学療法部門における実績傾向】

月報集計より

理学療法部門の実施件数の月平均は786件（昨年度より10%減）であった。令和4年度に引き続き理学療法部門の件数が減少に転じているが、理学療法部門への処方数は維持されており、引き続き全入所者の80%をフォローしている。分母である入所者数の減少に伴う影響が大きいと思われる。ベッドサイド介入の平均件数は80件であったが、月により50～100件台とムラがあった。理学療法の内容については、先年度同様に個別療法における徒手療法の割合が高く、物理療法（主としてホットパック）を併用する患者割合も昨年度同等の全処方数の20%弱を維持した。

## “カンファレンス件数”

2023. 11月より多職種カンファレンスが開催されるようになった。途中名称に変更があり多職種カンファレンスではなく、ケアカンファレンスとして担当するPT、OT、STが参加した。11月から3月までの5か月で合計23件のケアカンファレンスに参加した。

## “家屋評価・調整件数”

リハビリテーション科医師の立ち合い、指示の下実施される家屋評価は主として理学療法部門と義肢装具部門が対応するが、月平均3件で減少傾向にあった。

（令和2年度：6件 ➡ 7件 ➡ 5件 ➡ 本年度3件）

## 患者所属別：理学療法実施者数の前年度との比較

1病棟（154件 ➡ 79件：48%大幅減）、やすらぎ病棟（212件 ➡ 160件：24%減）、第1センター（440件 ➡ 437件）、第3西センター（376件 ➡ 339件）、一般舎（202件 ➡ 175件：13%減）、園外社会復帰者（11件 ➡ 12件）、第二共済（0件 ➡ 0件）1病棟入室中の患者に対するリハビリテーション処方および実施件数は大幅に減少している。

### 【リハビリテーション科 定期評価 (PT部門)】

9月にイレギュラーな検査依頼2件を含めて主として11月下旬から3月上旬にかけてFunctional ReachとTime Up To Go Testの2つの評価項目に対して理学療法部門で検査測定をおこなった。今年度は開眼片脚立位と5回立ち上がりテスト (FTSS) の2項目についてはリハビリテーション科の医師が診察時に検査測定をおこなった。合計53件の定期評価をおこなった。

### 【会議分担】

リハ科として委員に選出され、1回/月以上ある会議8つの分担として、理学療法士長に限定されたものを含め6つの会議を理学療法部門で分担した。また、不定期の会議としては初めて招集された防災委員会があった。

詳細以下、管理・診療会議 (PT士長)、園内感染対策委員会 (PT士長)、医療 (二) 部会 (PT士長)、医療安全推進部会 (PT崎野)、褥瘡対策委員会 (PT佐々木から休職中はPT高田に交代)、認知症ケアチーム (PT於久)、\*頭のいきいきリハチーム (OT小西、清水)、NST委員会 (ST柴山) 園内情報システム委員会：必要時開催 (PO菅野) 医療機器整備委員会 (PT士長1回/年)

\*頭のいきいきリハチームは1回/2か月の頻度であり、会の名称も2023年6月ごろ認知症リハビリチームから頭のいきいきリハチームに変更された。

### 【勉強会等講師依頼への対応 (理学療法部門)】

4月4日「リハビリテーション科の紹介」20分：庶務課 (PT士長・OT清水)

5月24日「移動・移乗介助」30分：看護部教育担当 (PT佐々木、PT士長)

(文責：理学療法士長 鈴木 広美)

## 作業療法部門 (OT)

定員：定員枠2名 (小西、清水)

昨年度、定年退職者1名のため、今年度1名が採用 (異動者) となった。定員を満たし業務を実施した。2024年3月31日付で自己都合により1名退職 (清水)。それに伴い、2024年2月14日～2024年3月29日までの約1か月半 (年次休暇取得) 1名体制による業務調整を行った。

ハンセン病後遺症や加齢、長期にわたる代償的な生活動作の習慣化等が起因と思われる頸部や肩周辺部の慢性的疼痛の増悪、また、昨年度から引き続き全国的な新型コロナウイルスの感染対策による行動制限から、活動性や認知機能、ADL、IADL能力低下につながった可能性がある入所者の身体心身機能の維持改善を目的に介入を進めた。

終末期に対する介入はベッドサイドにてリラクゼーションや関節可動域の維持、気分転換を目的に介入した。

集団棒体操はリハビリテーション医師から処方された、やすらぎ病棟2名、1センター3名に対しリハビリ室にて実施していた。1センターについては、2名のうち体調不良や不穏により欠席にて集団で実施できない回数も増えてきたため、年度途中より集団から個別に切り替えて実施した。

精神科処方による神経心理検査（認知症検査）は去年に引き続き実施した。

認知症予防対策の一環として去年度に引き続き、認知症対策部会のひとつ「認知症リハビリテーションチーム」に参加。年度途中で「いきいきリハチーム」に名称が変更になった。「いきいきリハ」を一般支援室ホールにて月2回（30分／1回）実施。2023年度の実績として20回開催した。年度末にOT 1名欠員の為1ヵ月半は未開催とした。平均参加人数2.3名。内容は主に運動と認知課題を組み合わせたプログラムである「コグニサイズ」を実施した。成果として、参加者の体の健康を促すと同時に、脳の活動を活発にする他、参加するため外出する機会が増えたこと、参加者間の交流がみられるようになったことがあげられる。今後について、参加メンバーを増やし継続していくことが課題として残り、さらに参加者の外出機会を増やし交流を促すことができるよう内容を考え取り組む必要がある。

今年度は前年度よりも全般的に実施件数が減少しているが、昨年度末に引き続きOT1名の担当患者調整や退職者の年次休暇取得のために1ヵ月半OT 1名だったこと、また患者総数が減少していること等が考えられる。

今後も身体機能に加え認知機能低下による生活困難者の増加が予想されるため、予防を含めた作業療法的介入が重要と考える。

実施件数の月平均	274件
新患件数の月平均	0.6件
OT介入全患者総数の月平均	1203件
ベッドサイド介入件数	80件
家屋評価	3件
精神科処方による神経心理検査（認知症検査）	15件

（文責：作業療法士 小西 英子）

# 言語聴覚療法部門（ST）

定員：言語聴覚士1名

入所者に対して、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害、認知機能障害、全般性精神機能障害に介入した。

言語聴覚療法実施件数及び単位数は統計資料の通りである。実施件数は昨年度より平均1.8件/月減少した。原因として考えられるのは、入所者数の減少に伴い、件数もそのまま減少している。昨年に引き続き、COVID-19等の感染症対策による活動制限のため、入所者がリハビリを休まざるを得ない機会も多くあった。今年度も、入所者の高齢化に伴い、摂食・嚥下障害や認知症の対象者が増加傾向にあり、その重症度も上がってきている。そしてそれに伴い、居室またはベッドサイドでのリハビリや、食事に関する相談も増加傾向にある。特に認知症に関しては重症度が高い方が増えており、多くの場合は拒否的な言動がみられ、その結果リハビリの介入に苦慮するケースもある。また、認知症による嚥下障害も増加傾向にある。いずれの場合でも、重症化する前段階での予防的リハビリでの介入が望ましい。今後もこれらの傾向は続いていくと考えられる。

その他、嚥下機能の定期検診をリハビリテーション科医師の指示の下行った。主に年度後半に24件実施することができた。また、園全体で多職種カンファレンスの取り組みが始まり、参加件数が増えた。リハビリテーション科全体でも関連する各部門で参加しているが、STの参加は9件だった。それ以外には本年も継続して、精神科依頼の認知症検査を作業療法部門と協力して実施した。さらに、もともと参加していたNST委員会で、NSTの対象患者（もしくは候補者）の摂食場面を多職種で観察するNSTラウンドも実施した。

- ・〈園内講義〉（嚥下に関する勉強会） 2件
- ・〈カンファレンス〉 9件
- ・嚥下機能定期検診 24件

（文責：言語聴覚士 柴山 聡美）

# 義肢装具部門（PO）

定員枠：義肢装具士2名にて義肢装具製作・適合業務を実施

ハンセン病後遺症患者に対し義肢装具の製作・適合・修理のほか、日常生活活動援助のための自助具製作や入所者の家屋改修なども行っている。装具は、後遺症による難治性潰瘍に対する治療の一環として製作することが多く、装具の不適合は潰瘍の悪化に繋がるため、他科と積極的に協力しながら調整や除圧方法の提案、経過観察などを細やかに行った。義肢装具処方を受け対応した実施件数は義肢装具実施件数表の合計の値であるが、その他に微調整や修理を多数行っているため、「調整等」として件数を計上している。患者数の減少に伴い件数は減少傾向であるが、患者の超高齢化による身体機能低下に伴った義肢装具・自助具の細かな調整や、居室での転倒リスク増加に対する居室内の保護など様々な要望に可能な限り対応した。

その他の活動として他科の勉強会や実習での講義、学会誌への投稿、臨床実習生受け入れを行った。

## 〈園内講義〉

- ・看護部「Foot Wearに関して」  
(令和5年11月13日) 後藤 直生
- ・看護学校の在宅看護論実習において、「義肢装具について」  
(令和5年9月26日-27日) 後藤 直生、菅野 太洋

## 〈学会誌への投稿〉

- ・(公社)日本義肢装具士協会 POアカデミージャーナル  
Vol.31, No3: 129-134 (2023年12月号)  
「ハンセン病患者とWhole Person Care」 菅野 太洋

## 〈臨床実習生受け入れ〉

- ・西武学園医学技術専門学校 義肢装具学科 2学年 … 1名  
(令和5年11月8日～12月14日の期間中、毎週水・木曜日)

(文責：義肢装具士 菅野 太洋)

# 放射線科

診療放射線技師長 佐藤 敬

令和5年度、放射線科は常勤2名、再任用職員1名の計3名で業務を行いました。今年度も、通常診療と入所者検診、職員健診（胸部、胃透視）の放射線検査を実施しています。放射線科では年々高齢化する入所者に対して少しでも負担を軽減し、不安を生じさせない様、寄り添った医療を心掛け業務を行ってきました。胸部撮影時など立位困難な方が多くなってきており複数対応での介助やX線撮影用補助椅子を用い転倒防止等の安全管理に努めました。当園でも転倒事例や脳、呼吸器、消化器、心疾患系に関連した急性期の検査依頼も生じています。

初期診療に必要とされる画像情報を提供する体制を備え、入所者が安心して園の生活が送れる支援体制の一端を担えればと思います。

放射線科業務状況として表に過去5年分の各検査別推移を示しています。年々、入所者の減少に伴い一般撮影件数は減少傾向にあります。高齢化に伴う認知症や基礎疾患の経過観察などによるCT検査の需要は多く必要性が高い。現有装置は、導入から10年を経過しサポートエンドとなるため次期装置への更新を計画しています。次期装置では息止めによる負担を軽減する短時間撮影可能な装置が望まれる。またワークステーションを用いた画像支援など各科の要望に対応出来る環境を整えて行きたい。令和2年度から開始した骨密度検査も定着し有益な情報を入所者に提供出来ていると思われます。装置更新などを期に、最新技術やソフトウェアを活用した画像情報を画策し入所者により良い医療を提供出来る様に取り組んで行きます。

今年度の機器整備面では画像情報システム一式（画像サーバー、PACS関連）を更新した。今後はオーダリングへの対応などインフラ整備が課題と考えられます。令和6年度以降は総合診療棟移転へ向けた装置移設の準備計画や書類作成を行って行く事が予想されます。放射線科として法を遵守し今後の動向に十分、対処出来るよう準備を進めて行きたいと思ひます。

# 歯 科

歯科医長 石崎 勤

歯科では普遍的で安全な診療の継続および長期的診療計画に従い診療の改善を図ってきました。口腔内の衛生状態改善により誤嚥性肺炎の減少や嚙み合わせがしっかりしていることが食べるだけでなく転倒や認知症の進行に影響があることが広く知られています。これらを踏まえ口腔ケアの充実および義歯や歯科インプラントを含む咬合維持確保に努めてきました。本年度の年間外来患者数は、2146名と昨年度より約15%増加しコロナ禍よりの脱却傾向が見られます。しかし、その内訳には大きな変化が見られます。入所者様の高齢化と身体的状況の変化に伴い早期の咬合・咀嚼回復の目標から、現在の口腔機能維持と口腔衛生管理の充実を図ってきました。高齢化に伴う全身的な変化と予知しえる口腔トラブルおよび全身への影響を予防すべく、専門的口腔清掃処置として歯科衛生士の居住区訪問での処置件数や診療室での歯科衛生士処置も増加させております。昨年の処置件数の約1.5倍となり、歯科処置数の約55%を占めるようになってきました。そのうち訪問での歯科衛生士処置数は131例と昨年の約3.5倍となりました。入所者個々の全身状態・予後も含めた計画的治療を状況に合わせて修正し診療・予防処置にあたっております。しかし、心理的抵抗感、全身状態により網羅するまでは至っておりません。入所者様は年々高齢化・身体的状況により、ますます居住区での口腔ケアが重要となってきます。口腔ケアは日常的口腔ケアと専門的口腔ケアに分かれています。今後情報共有の手段・他職種への知識、技術の伝達などを充実させ、日常的と専門的口腔ケアを園全体へ定着させていきたく思います。

オーラルフレイル（虚弱）は全身的なフレイルに先行して発現するとされています。そこでオーラルフレイルのみならず重複障害に対しては、変化が出る前または早期から将来予想を含めた歯科アプローチにより食事・会話・嚥下等の問題予防に繋がると一般的に考えられております。また、それらの早期からの機能維持が全身的フレイルの予防につながります。当園の入所者の状態を考慮すると、時間的余裕は少ないと感じております。食事を楽しむことや会話をすることが、人たる所以の大きな要素で有り歯科はその一端を担う事を心に留めおき今後とも入所者様のQOLの維持・向上につながるよう診療にあたっていきます。

# 薬 剤 科

薬剤科長 伊藤 博

## 薬剤科の理念

入所者の方々の薬物療法が安全で効果的に行われるよう他部門と連携し、医薬品及び情報を提供します。

## 薬剤科の基本方針

1. 園内の方々との信頼関係向上
2. 薬の正確で安全な調剤を心がける
3. 薬品情報は正確で迅速な提供
4. 薬品の適正在庫による健全な経営

## 薬剤科の業務

薬剤科では、調剤、注射調剤、医薬品管理、医薬品情報、チーム医療などの業務を薬剤師4名と薬剤助手1名で行っています。

2020年7月より入所者すべての方に「お薬手帳」を配布し、処方毎にシールを発行し手帳に貼付しています。手帳を導入することで全ての診療科の処方が時系列で容易に確認することが可能となり、さらに最初のページには個人ごとの処方禁忌薬が貼付してあり、委託先への処方情報共有にも役立てることができます。「お薬手帳」を利用して飲み合わせやお薬の重複チェックを行うことで、より安心してお薬を使用することができます。

調剤、注射調剤では、用法用量、投与ルート、相互作用、禁忌薬などの処方監査を行い医薬品の適正使用を実施しています。

医薬品管理では、安全かつ有効に管理保管し、購入、在庫、供給の適正化をはかり経済性を重視しています。特に後発医薬品の推進につきましては、適切に使用していくための取組を実施しています。本年度は後発医薬品数量割合で95.4%に達しています。

医薬品情報では、情報の収集、整理を行い迅速に医療関係者への情報提供を行っています。また入所者さんに対しては、お薬説明書などで医薬品に関する情報を提供しています。

その他、医療安全、AST、感染防止対策チーム、認知症ケアサポート、NSTなどのチーム医療に参画し、最善の薬物療法に貢献出来るように努めています。

# 研究検査科

臨床検査技師長 莊司 路

研究検査科は、精度の高い検査結果を迅速に報告し、入所者に安心・安全で質の高い医療を提供できるよう努めています。

令和5年度は、臨床検査技師6名（常勤：5名、再任用1名）で、検体検査（生化学・免疫・血液・一般）、微生物検査、病理検査、生理検査業務を行いました。

## 【業務改善報告】

### （1）園内検査項目の見直し

全自動血液凝固測定装置 CN-3000が導入され、これまで用手法で実施していたFDP半定量検査を精度の高い定量検査に変更しました。

また、外部委託検査項目であったD-dimer、NT-proBNPについては、至急検査であっても翌日報告と時間を要していたため、2023年7月より園内検査項目として導入し、約30分で結果報告が可能となりました。園内検査項目として導入したことにより、異常値検出時には直ちに担当医へ連絡し入所者の状態を確認していただくなど、迅速な対応ができるようになりました。

その他、A群β溶血性連鎖球菌抗原検査、尿中肺炎球菌莢膜抗原検査、尿中レジオネラ抗原検査を園内検査項目として導入しました。これまでA群連鎖球菌、肺炎球菌、レジオネラ菌は一般細菌培養検査で実施していたため、結果報告までに3～4日間要していました。迅速検査を導入することにより15分でこれらの感染の有無が判定でき、適切な抗菌薬治療につなげられるようになりました。

### （2）新型コロナウイルス検査の対応について

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、これまで制限されていた活動が少しずつ緩和され、コロナ前の生活スタイルが戻ってきました。園内においてもレクリエーションが再開され、集合型での活動が増えてきました。人との交流の機会が増えた分、新型コロナウイルス感染症のリスクも増し、感染対策強化のため検査を実施する回数も増加しました。

研究検査科では、入所者の感染対策だけでなく園内で働く職員が安心して働けるよう、新型コロナウイルスの検査体制の強化に努めました。濃厚接触者となっている職員の出勤前検査については、これまでは検査キットを渡し個人で検査を実施していただきましたが、検査精度の担保や結果の管理がされていないなどの問題が生じたため、2023年5月より検体採取から結果報告までを研究検査科で一元管理をすることにしました。

## 2023年4月～2024年3月の新型コロナウイルス検査依頼件数

	入 所 者	職 員
新型コロナウイルス定性	12 件	464件
新型コロナウイルス定量	343 件	311件
合 計	355 件	775件

### (3) 医療機器の精度管理および保守点検について

研究検査科で使用している医療機器に関しては、日常業務の中で精度管理や保守点検を実施していますが、病棟、センター、治療棟の医療機器に関しては適切な管理がされずに使用されてきました。そこで2024年2月より、研究検査科以外の各部署で使用されている持続血糖測定装置 FreeStyle リブレ、心電計、超音波測定診断装置に関して精度管理および保守点検を開始しました。持続血糖測定装置 FreeStyle リブレに関しては、専用コントロールの測定、心電計に関しては、チェッカーを用いて心電計の感度、周波数特性の確認、超音波測定診断装置に関しては、プローブの劣化や機器動作などを確認し記録することにしました。

日常検査で実施している精度管理や保守点検を定期的の実施することで、安全かつ精度の高い検査結果を提供することが可能となりました。

### (4) 検体搬送・受領記録簿の導入について

日常検査において検体の提出状況の確認は必須ですが、当園は電子カルテが導入されていないため、採血実施の確認や、検体の提出状況の確認については全て電話で行っていました。また『いつ』『誰が』『何時に採血を実施したか』『何本の採血管を検査室に搬送したか』などの記録が無く、検体に対する責任の所在が明確になっていませんでした。これらを改善するため、『検体搬送・受領記録簿』を作成し2023年10月より運用を開始し、検体の払い出しから検体受領までの経過について明確化することが可能となりました。この運用を開始したことにより、「誰が誰の採血を何本するか」を採血前に確認するようになり、患者間違い、採血管間違いなどのインシデントが減少しました。また、検体採取時間が明確となり検査結果の信頼度も高まりました。

# 栄養管理室

栄養管理室長 森山 裕

令和5年度は、管理栄養士3名、調理師9名、事務員1名と委託職員12名でスタートしました。(調理師人員不足のため、朝食および食器洗浄については全面業務委託となっています。)

おいしく楽しめる食事提供の取り組みとして、前年度に引き続き「心のこもった手作りメニュー」の提供を行いました。手作りハンバーグ、手作りサンドイッチ、手作り茶碗蒸しに加えて、今年度チャレンジした「手作りにぎり寿司」は特に好評でした。

また、正月に行う「餅」の提供については、危険性の高い人向けに、餅米を使った餅ムースを作成し提供しました。危険性の評価や安全性の向上には、リハビリテーション科や看護部門をはじめ、園内全体で取り組みました。

さらに、栄養管理面でもNST（栄養サポートチーム）活動にて、園内各部署と連携し食事対応を行っています。

## 主な行事食

4月	園内たけのこ掘り 観桜会	たけのこ御飯 花見弁当 桜餅 甘酒	10月	スポーツの日	フルーツ盛り合わせ
5月	子供の日 新茶味見会	五目寿司 柏餅 新茶 水ようかん	11月	文化の日 新嘗祭	デザート おにぎり
6月	和菓子の日 夏至	和菓子 フルーツヨーグルトホイップ	12月	冬至 クリスマス 大晦日	かぼちゃ ローストチキン ケーキ 年越しそば
7月	七夕 お盆 海の日 土用の丑	七夕ゼリー おはぎ シーフードカレー 鰻蒲焼き	1月	お正月  鏡開き バレンタイン	雑煮 おせち料理(1日~3日) 正月用お茶 おしるこ チョコデザート
8月	山の日 お盆 超早場米	山菜おこわ おはぎ 九州産超早場米	3月	ひなまつり お彼岸	ちらし寿司 水ようかん おはぎ
9月	敬老の日記念式典 敬老の日 お彼岸 開園記念日 十五夜 開園記念日	ぶどう 甘酒 お赤飯 おはぎ 折り詰め弁当 お月見和菓子 折り詰め弁当			

# 第1病棟・中央材料室

看護師長：菅谷 恵美

## 1. 病棟の特色

### 1) 病棟

内科・外科病棟として急性期の役割を果たし、緊急の入室に対応している。高齢化に伴いハンセン病による重複障害や認知症、他の合併症などから、身体の不自由度が増しているため、多職種と連携しながら入退室の調整を行っている。また、高齢化に伴い終末期の過ごし方を居住区と共に検討し、患者の心に寄り添い、その人らしく、安寧を保ちながら、より良い時間を過ごし最期を迎えることができるよう援助を行っている。

その他、園外から再入園を希望する患者の受け入れも行なっている。

### 2) 透析室・中央材料室

透析対象患者が不在のため、稼働件数は0件であった。機材管理とメンテナンスを継続し、緊急対応に備えている。中央材料室は、医療材料の在庫管理とリストの整理を行い無駄のない使用と、適切な器材の滅菌に取り組んでいる。

## 2. 病棟目標

1. 入退室の円滑化を図る
2. 多職種カンファレンスの推進
3. 終末期看護、認知症看護の充実
4. ワークライフバランスの推進
5. 物品の最適化を図る

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

2023年4月1日現在

	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員									
		定員内	(再掲) 再任用	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外					
						介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤	
看護師長	1														
副看護師長	1														
看護師・准看護師(上記以外)	19														
看護助手・介護員	3							1							

## 2) 看護・介護方式

## 3) 勤務体制

2023年4月1日現在

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出		名	早出	7:00~15:30	0名
日勤	8:30~17:15	6名	日勤	8:30~17:15	0名
遅出		名	遅出		名
準夜	0:30~9:00	2名	準夜		名
深夜	16:00~9:15	2名	深夜		名
		名	当直		名

## 4. 患者の状況

### 1) 入院患者（前年度）

1日平均患者数	8.5名
平均在院日数	76.5日
病床利用率	28.3%
平均年齢	87.4歳

### 4) 看護度

2023年4月1日現在

	I	II	III	IV
A	0	0	0	0
B	0	2	2	0
C	0	0	2	0

### 2) 不自由度

2023年4月1日現在

特重	3
重	0
中	2
軽	0
一般	1

### 5) 身体状況

2023年4月1日現在

全盲	0名
弱視	0名
難聴	1名
片義足	0名
両手指欠損	0名
片手指欠損	0名
認知症	3名

### 3) ADL状況

2023年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	6	0	0
食事	3	3	0
排泄	5	1	0
移動	6	0	0

### 6) 疾患別構成（前年度）

呼吸器系疾患	12名
整形外科疾患(骨折他)	7名
脳神経疾患	5名
消化器系疾患・食思不振	5名
循環器系疾患	4名
皮膚疾患	4名

### 7) 手術・人工透析等件数（前年度）

手術	0件
人工透析	0件

# やすらぎ病棟

看護師長：松岡 千恵美

## 1. 病棟の特色

後期高齢者や認知症、精神的障害等のある精神科関係の病棟である。平均年齢92歳。入所者は長年住み慣れた一般寮、センターでの生活が困難となり生活全般の介助を要する。日常ケアでは、ADLの低下予防、寝たきりにしないことをモットーに残存機能維持に努めている。その人らしく生きるサポートとして、病棟レクリエーションを充実させること、心の安らぎとして信仰している宗教への参加、舎籍のあるセンターで短時間であっても過ごす時間を提供する等、日々の生活の中にやすらぎと楽しみを得られるよう援助している。

急性期病棟の後方病棟として点滴、酸素吸入、吸引など生活を維持するための医療処置を必要とするまたは、その可能性の高い患者を受け入れ、ケアをしている。

## 2. 病棟目標

- 1) 入所者のライフサポート体制の構築
- 2) 根拠に基づいた看護・介護を実践する人材の育成
- 3) 働く充実感が得られる、魅力ある職場作り

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

2023年4月1日現在

	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員						
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外		
			再任用			介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続
看護師長	1	1				/						
副看護師長	2	2										
看護師・准看護師 (上記以外)	26	26		2								
看護助手・介護員	5					4		1	2			1

### 2) 看護・介護方式

### 3) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	1名	早出	7:00~15:30	3名
日勤	8:30~17:15	5名	日勤	8:30~17:15	0名
遅出	10:30~17:15	1名	遅出	9:00~17:45	2名
準夜	16:30~1:00	3名	準夜		名
深夜	0:30~9:00	1名	深夜		名
二交替	16:00~9:15	2名	当直		名

## 4. 患者の状況

### 1) 入院患者 (前年度)

1日平均患者数	15.4名
平均在院日数	4321日
病床利用率	34.20%
平均年齢	92.0歳

### 4) 看護度

2023年4月1日現在

	I	II	III	IV
A	1	0	0	0
B	5	7	1	0
C	0	0	0	0

### 2) 不自由度

2023年4月1日現在

特重	13
重	1
中	0
軽	0
一般	0

### 5) 身体状況

2023年4月1日現在

全盲	0名
弱視	6名
難聴	3名
片義足	0名
両手指欠損	1名
片手指欠損	0名
認知症	13名

### 3) ADL状況

2023年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	14	0	0
食事	10	4	0
排泄	13	1	0
移動	13	1	0

### 6) 疾患別構成 (前年度)

アルツハイマー型認知症	6名
血管性認知症	3名
その他の認知症	4名
精神発達遅滞	1名
	名
	名

### 7) 手術・人工透析等件数 (前年度)

手術	0件
人工透析	0件

# 第1センター

看護師長：田崎 明子

## 1. 不自由者棟の特色

### 1) 入所者の特徴

ハンセン病後遺症と高齢による重複障害及び合併症を持った不自由度の高い夫婦と、独身者を対象とした生活の場である。平均年齢は、89歳であり、介助を必要とする歩行者や車椅子利用者は、入居者の約90%を占めている。視力障害や聴力低下・認知症を併発し、看護・介助を受けながら療養生活を過ごしている。

### 2) 看護・介護の特徴

入居者が、安全に過ごすことができ、その人らしく生活するために、看護・介護の連携で生活・健康に関わる援助を行っている。また、入居者のADLの低下に対応できるよう日常生活援助や環境整備に努めている。センター夜勤看護師が、24時間入居者の健康管理や体調変化に対応できるよう管理している。生活が単調なものにならないようすること、認知症対策として積極的にレクリエーションを実施している。

## 2. 不自由者棟目標

- 1) 看護・介護が連携し、24時間入居者の健康を管理し、個別性のある日常生活援助を実践する
- 2) センター内の居室・敷地内の環境整備し、転倒予防に努める
- 3) ワークライフバランスを考慮した働きやすい職場環境作り

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

2023年4月1日現在

	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員							
		定員内	(再掲) 再任用	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外			
						介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間
看護師長	1	1											
副看護師長	1	1											
看護師・准看護師 (上記以外)	20	20		1									
看護助手・介護員	31				3	4	24	3		4			7

## 2) 看護・介護方式

看護師：13寮（3名）14寮（3名）15寮（4名）16寮（4名）17寮（3名）寮ごとの受け持ち制及び一部機能別

介護長：13.14（1名）、15寮（1名）、16.17寮（1名）1年交替

副介護長：13.14.15.16.17寮（各1名）6ヶ月交替

介護員：各寮 6ヶ月ごと交替

## 3) 勤務体制

2023年4月1日現在

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	13名
日勤	8:30~17:15	10名	早出	8:00~16:45	1名
遅出	9:15~18:00	0名	日勤	8:30~17:15	9名
準夜	16:30~1:00	2名	遅出	9:15~18:00	9名
深夜	0:30~9:00	3名	深夜		名
			当直		名

## 4. 入所者の状況

### 1) 入居者の状況（前年度）

在籍者数	31名
現在数	29名
居室利用率	42.00%
平均年齢	89.9歳

### 4) 看護度

2023年4月1日現在

	I	II	III	IV
A	0	0	0	0
B	7	0	18	0
C	0	0	0	4

### 2) 不自由度

2023年4月1日現在

特重	8
重	5
中	10
軽	3
一般	3

### 5) 身体状況

2023年4月1日現在

全盲	2名
弱視	3名
難聴	8名
片義足	2名
両手指欠損	0名
片手指欠損	2名
認知症	5名

### 3) ADL状況

2023年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	15	11	3
食事	2	22	5
排泄	8	16	5
移動	5	20	4

# 第3西センター

看護師長：田澤 理恵

## 1. 不自由者棟の特色

### 1) 入所者の特徴

ハンセン病の後遺症に加えて、加齢によって生じた重複障害を抱える独身入所者の療養生活の場である。平均年齢は87.0歳。ADLや認知機能が低下し、歩行・入浴介助などの日常生活の支援を受けながら療養生活を過ごしている。

### 2) 看護・介護の特徴

看護師介護員が24時間常時滞在し、ハンセン病の後遺症や加齢によって生じた重複障害を抱える入所者が健康で安全安楽に過ごせるよう関わっている。入所者の習慣や文化を大切にし、個人を尊重すると共に、心の安らぎを得て生活できる環境作りを心がけている。誤嚥防止の嚥下体操や認知症予防対策、引きこもり防止のためのレクリエーション等を感染対策を講じながら行い、入所者の生活の質の維持に努めている。また、第3西センターで最期までその人らしく過ごして頂くよう、看護師介護員が連携し対応している。

## 2. 第3西センター目標

- 1) 入所者へ安全で安心な生活環境を提供するため、看護・介護の連携を強化する
- 2) 入所者への安全な医療の提供のため、与薬管理業務の改善を行う
- 3) 入所者の思いや歴史を理解し、エンドオブライフケアの充実を図る

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

2023年4月1日現在

	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員								
		定員内	(再掲) 再任用	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外				
						介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤
看護師長	1	1												
副看護師長	1	1												
看護師・准看護師(上記以外)	21	21		2										
看護助手・介護員	23					2	2	19	2		2			3

### 2) 看護・介護方式

### 3) 勤務体制

2023年4月1日現在

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	11名
日勤	8:30~17:15	5名	日勤	8:30~17:15	0名
遅出	12:30~21:00	0名	遅出	9:15~18:00	4名
準夜	16:30~1:00	1名	遅出	10:30~19:00	0名
深夜	0:30~9:00	1名	当直		名
二交代	16:00~9:15	2名			名

### 4. 入所者の状況

#### 1) 入居者の状況 (前年度)

在籍者数	26名
現在数	26名
居室利用率	60.50%
平均年齢	87.0歳

#### 4) 看護度

2023年4月1日現在

	I	II	III	IV
A	0	1	0	0
B	1	2	8	2
C	0	0	5	7

#### 2) 不自由度

2023年4月1日現在

特重	6
重	7
中	4
軽	4
一般	5

#### 5) 身体状況

2023年4月1日現在

全盲	2名
弱視	7名
難聴	9名
片義足	2名
両手指欠損	1名
片手指欠損	7名
認知症	13名

#### 3) ADL状況

2023年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	10	7	9
食事	3	7	16
排泄	3	7	16
移動	3	12	11

# 治療棟

看護師長：吉田 輝子

## 1. 治療棟の特色

治療棟には、皮膚科・眼科・外科・整形外科・リハビリテーション科・耳鼻咽喉科・内科・リウマチ科・精神科・泌尿器科・歯科の外来がある。

特に皮膚科は専門皮膚科と一般皮膚科があり、専門皮膚科外来ではハンセン病後遺症の診療・看護を行っている。

### 1) 入所者の外来診療

ハンセン病後遺症の診療、入所者健康診断、ICTと連携し各種予防接種等を実施している。

### 2) 社会復帰者の外来診療

医療社会事業専門職と連携し、社会復帰者の外来診療と再入園時の窓口として機能している。

### 3) 看護外来

一般寮入所者を対象としたハンセン病後遺症による足病変を予防し日常生活の自立支援のためのフットマッサージと爪ケアを実施している。

### 4) 委託診療

多職種と連携し、専門医療機関への受診・入退院・面会の窓口となっている。

## 2. 治療棟目標

- 1) 入所者が安心できる安全・安楽な外来看護を提供する。
- 2) 多職種と連携し、入所者の満足度の向上に努める。
- 3) 外来看護の専門性を高めるための自己啓発を行う。
- 4) 医療機器・備品・設備の適切な管理を行う。
- 5) ワークライフバランスを充実させる。

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

2023年4月1日現在

	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員								
		定員内	(再掲) 再任用	再任用 短時間	非常勤	定員内				定員外				
						介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用 短時間	非常勤
看護師長	1	1												
副看護師長	1	1												
看護師・准看護師 (上記以外)	17	17												
看護助手・介護員	1						1			1				1

## 2) 勤務体制

2023年4月1日現在

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	0名
日勤	8:30~17:15	17名	日勤	8:30~17:15	3名
遅出	12:30~21:00	0名	遅出	9:00~17:45	0名
準夜	16:30~1:00	1名	遅出	10:00~18:30	0名
深夜	0:30~9:00	1名	深夜		名
二交代	16:00~9:15	0名	当直		名

※ 治療棟、一般寮支援室の2部署で深夜勤及び準夜勤を担当している。

## 4. 患者（入所者）の状況

### 1) 診療科別受診者数（前年度）

	専門皮膚科	一般皮膚科	眼科	外科	整形外科	リハビリ テーション科	耳鼻科	内科	リウマチ科
年間延べ人数									
月平均	247.6	85.2	77	28	120.7	110.7	315.5	172.6	3.8

	精神科	泌尿器科	歯科
年間延べ人数			
月平均	36.6	13.2	

### 2) 検査状況と手術件数（前年度）

	超音波エコー	上部内視鏡	下部内視鏡	気管支鏡	膀胱鏡	CT	バイオプシー	手術
年間延べ人数	139	0	0	0	0	105	0	0
月平均	13.9	0	0	0	0	10.5	0	0

### 3) 看護外来

	フット マッサージ	爪ケア
年間延べ人数	244	114

## 5. 看護師・看護助手（看護部所属）が委託診療を受ける入所者へ付き添った件数（前年度）

	外来	入院	退院	面会 等
看護師が付き添った延べ件数	250	20	22	25
看護助手が付き添った延べ件数	6	5	3	0
合計	256	25	25	25

# 一般寮支援室

看護師長：原 祐二

## 1. 治療棟の特色

### 1) 人生サポート推進室

入所者の高齢化が進む中、重複障害を持ちながらも一人ひとりがその人らしい人生を送ることができるよう療養生活をサポートするために、園全体で計画的に取り組む為の調整役として、機能を果たす。

### 2) 一般寮支援室

一般寮入所者の健康管理、生活支援を中心とした活動を行っている。毎週居室を訪問し、感染対策の啓蒙活動、体調不良時の外来受診の付き添い、転倒防止や火災の危険に対する環境調整を行っている。

## 2. 治療棟目標

- 1) 入所者のライフサポート体制の構築と実践
- 2) 根拠に基づいた看護・介護を実践する人材の育成
- 3) 働きやすく、個々の意見が反映される職場づくり
- 4) 無駄のない適切な物品の使用

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

2023年4月1日現在

	配置数(定員内)	看護師・准看護師			看護助手・介護員								
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内			定員外				
			再任用			介護長	副介護長	左記以外	(再掲)	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間
看護師長	1	1											
副看護師長	1	1											
看護師・准看護師(上記以外)	5	5											
看護助手・介護員	4						4						

## 2) 勤務体制

2023年4月1日現在

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	0名
日勤	8:30~17:15	5名	日勤	8:30~17:15	4名
遅出	12:30~21:00	0名	遅出	9:00~17:45	0名
準夜	16:30~1:00	1名	遅出	10:00~18:30	0名
深夜	0:30~9:00	1名	深夜		名
二交代	16:00~9:15	0名	当直		名

※一般寮支援室、2・3治療棟、2部署で準夜及び深夜を担当している

## 4. 患者（入所者）の状況

### 1) 入居者の状況（前年度）

在籍者数	34名
現在数	30名
居室利用率	18.40%
平均年齢	84.1歳

### 4) 看護度

2023年4月1日現在

	I	II	III	IV
A	0	0	0	0
B	0	0	0	0
C	0	0	0	30

### 2) 不自由度

2023年4月1日現在

特重	0
重	0
中	0
軽	14
一般	16

### 5) 身体の状況

2023年4月1日現在

全盲	0名
弱視	0名
難聴	2名
片義足	1名
両手指欠損	1名
片手指欠損	0名
認知症	0名

### 3) ADL状況

2023年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	0	0	30
食事	0	0	30
排泄	0	0	30
移動	0	0	30

## 5. 訪問看護件数（一般舎の入所者の所へ一般寮支援室看護師が訪問した回数）（前年度）

年間延べ人数	7649人
月平均	695件
平日平均数	34.3件

# 教育担当

教育担当看護師長：緒方 純子

## 1. 教育実施状況

### ◇施設内教育委員会（前年度）

#### （1）目的

- ・国立療養所多磨全生園及び看護部の理念と方針に基づいて、組織の一員としての自覚を高め行動できる人材を育成する。
- ・ハンセン病療養所で生活する入所者の歴史が理解でき、人権を尊重し、社会に向けて啓発できる人材を育成する。
- ・ハンセン病療養所の職員として、専門知識・技術を習得し、看護・介護が実践できる人材を育成する。
- ・専門職業人として、自己研鑽できる人材を育成する。

#### （2）目標

- ・ハンセン病療養所の看護職員としての役割と責任を自覚して倫理観をもった行動できる能力を養う。
- ・入所者の歴史を理解し、人権を尊重した看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・ハンセン病及びその後遺症が理解でき、適切な看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・高齢化している入所者に対応するため、老年の特徴を理解し、看護・介護ができる能力を養う。
- ・入所者が生きていることの充実感を満たせるようにQOLの向上をはかる能力を養う。
- ・入所者、家族（保護者）、医療メンバーとの望ましいコミュニケーションを図るための能力を養う。
- ・医療やハンセン病療養所の動向に目を向け、今日的な専門知識・技術を習得し、看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・臨床看護研究や研修を通じ、ハンセン病看護の専門性及び看護・介護の質的向上を図る。

#### （3）内容

研修名	目標	対象者	人員	実施日
新採用者 オリエンテーション	国立療養所多磨全生園の一員としての自覚を持ち 役割と責任を認識する	新採用者 中途採用者 異動者	24名	令和5年4月3日 ～5日
業務改善 (ラダーⅣ)	自部署の目標を達成するための方策を見出し、問 題解決の過程を学ぶ	看護師	9名	令和5年5月17日 12月8日
リーダーシップ① (ラダーⅢ)	主体的にチームの一員としての役割を遂行する 部署でリーダーシップを発揮し、事例を発表でき る	介護員	6名	令和5年5月23日 10月17日 12月22日

研修名	目標	対象者	人員	実施日
メンバーシップ (ラダーⅡ)	看護チーム内で自分の役割を理解し、業務を遂行することができる	看護師	1名	令和5年5月23日
移動・移乗の介助 (ラダーⅠ)	入所者の状態に合わせた安全な移乗・移動介助ができる	看護師	1名	令和5年5月24日
薬剤管理 (ラダーⅠ)	安全な与薬管理を理解する	看護師	1名	令和5年5月25日
リーダーシップ (ラダーⅢ)	主体的にチームの一員としての役割を遂行する	看護師	5名	令和5年5月3日
メンバーシップ (ラダーⅡ)	メンバーシップについて理解できる	介護員	1名	令和5年6月12日
プリセプター フォローアップ	後輩の学習を支援し、後輩育成の役割を果たす	看護師	7名	令和5年6月13日 9月12日 12月15日 令和6年2月29日
後輩育成③ (ラダーⅣ)	コーチングを理解し、行動できる	看護師	9名	令和5年6月14日
静脈血採血 (ラダーⅠ)	安全な採血と検体の取り扱いを手順に基づいて実施する	看護師	1名	令和5年6月15日
看護過程② (ラダーⅡ)	看護過程を展開し、根拠に基づいた看護を実践することができる	看護師	1名	令和5年6月16日 10月18日 12月19日
看護過程③ (ラダーⅢ)	ケーススタディを通して実践した看護を振り返り、自己の看護を高める	看護師	5名	令和5年6月20日 12月20日
リーダーシップ② (ラダーⅣ)	組織におけるそれぞれの役割とリーダーシップを理解し、自部署の問題点を解決する手法を学ぶ	介護員	5名	令和5年6月26日 12月25日
フットケア	ハンセン病療養所の看護師としてフットマッサージに関する必要な知識・技術を習得する	看護師	10名	令和5年6月27日
公開研修 看護マネジメント (ラダーⅤ)	自部署の課題を明確にし、課題解決に向けた実践を通して看護マネジメント能力を養う	看護師	2名	令和5年6月30日 令和6年1月23日
【e-ラーニング】 感染対策③ (ラダーⅢ)	感染対策についての問題提起が出来る 感染防止・廃棄物の処理が理解できる	介護員	6名	令和5年6月1日 ～30日
2ヶ月の振り返り (ラダーⅠ)	職場に適応し、ストレスコントロールや健康管理について語る	看護師	1名	令和5年7月3日
後輩育成① (ラダーⅡ)	新人介護員の支援について理解する	介護員	3名	令和5年7月5日
倫理③ (ラダーⅢ)	倫理に基づいた介護を入所者に提供できる	介護員	6名	令和5年7月10日
看護管理 (ラダーⅣ)	部署の管理に必要な知識を理解する	看護師	9名	令和5年7月12日
後輩育成② (ラダーⅢ)	コーチングを理解する	看護師	5名	令和5年7月13日
食生活支援 (ラダーⅠ)	食生活支援における看護・介護の役割がわかる	看護師	1名	令和5年7月13日
経営について (ラダーⅤ)	財務の視点を持ち、経営改善・業務改善に取り組むことができる	看護師	2名	令和5年7月18日

研修名	目標	対象者	人員	実施日
介護管理 (ラダーⅣ)	部署に必要な介護管理を理解する	介護員	5名	令和5年7月21日
フィジカル アセスメント② (ラダーⅡ)	入所者の状態をアセスメントし、緊急度を捉え、 生命に関わる問題点の優先度がわかる	看護師	1名	令和5年7月25日
【e-ラーニング】 看護過程① (ラダーⅠ)	当園の看護介護記録・情報収集の方法がわかる	看護師	1名	令和5年7月28日
フィジカル アセスメント① (ラダーⅠ)	入所者の状態に適した観察・測定ができる	看護師	1名	令和5年9月7日
経営について (ラダーⅣ)	財務の視点を持ち、業務改善に取り組むことができる	看護師	9名	令和5年9月13日
倫理② (ラダーⅡ)	自己の倫理的問題を明確にする	介護員	3名	令和5年9月13日
倫理② (ラダーⅡ)	入所者の尊厳と権利を理解し、自身の抱える倫理的 問題を明確にし、対処方法を知る	看護師	1名	令和5年9月19日
後輩育成② (ラダーⅢ)	主体的にチームの中心となり、指導ができる	介護員	6名	令和5年9月22日
【e-ラーニング】 静脈注射① (ラダーⅠ)	静脈注射を受ける患者の看護が理解できる	看護師	1名	令和5年9月27日
倫理③ (ラダーⅢ)	倫理的問題に気づき、問題提起できる	看護師	5名	令和5年9月27日
後輩育成③ (ラダーⅣ)	現場でファシリテーターとして役割を理解し発揮 できる	介護員	5名	令和5年10月11日
6か月の振り返り (ラダーⅠ)	入職後半年を振り返り、看護実践を自己評価し、 今後の課題と取り組みについて見出す	看護師	1名	令和5年10月27日
【e-ラーニング】 介護記録② (ラダーⅡ)	根拠に基づいた個別性のある介護計画を立案できる	介護員	3名	令和5年10月1日 ～31日
【e-ラーニング】 医療安全③ (ラダーⅢ)	医療安全管理に対する問題を提起し、対策できる	介護員	6名	令和5年10月1日 ～31日
園内認定創傷ケア 看護師養成研修	ハンセン病後遺症における屈曲指の胼胝ケア、胼 胝下潰瘍、等、専門的知識・技術を用いて質の高い 看護を実践できる能力、及び他の看護師の指導・ 相談を行なうことができる	看護師	1名	令和5年11月13日 11月14日
【e-ラーニング】 介護記録② (ラダーⅡ)	入所者の反応等を記録できる	介護員	3名	令和5年10月1日 ～31日
【e-ラーニング】 介護記録③ (ラダーⅢ)	後輩に記録指導ができる	介護員	6名	令和5年11月1日 ～30日
【e-ラーニング】 倫理① (ラダーⅠ)	看護倫理について必要な基礎知識を理解し、臨床 における倫理的課題に気付くことができる	看護師	1名	令和5年11月9日

研修名	目標	対象者	人員	実施日
公開研修 ファシリテーション (ラダーⅣ)	ファシリテーションを用いたコミュニケーションについて習得、実践することで、チームリーダーとしての役割を果たすことができる	看護師	10名	令和5年11月22日
急変時の看護BLS	入所者の状態変化・急変に気づき、対応できる	看護師	13名	令和5年12月14日 令和6年2月9日
【e-ラーニング】 医療安全② (ラダーⅡ)	安全な看護を提供するために危険の予測と予防ができる	看護師	1名	令和5年11月1日 ～30日
【e-ラーニング】 医療安全③ (ラダーⅢ)	部署内の医療安全に関する問題提起をする	看護師	5名	令和5年11月1日 ～30日
【e-ラーニング】 医療安全② (ラダーⅡ)	K Y Tについて理解し、入所者の安全な環境を整えるための対策を図れる	介護員	3名	令和5年10月1日 ～31日
【e-ラーニング】 感染対策② (ラダーⅡ)	園内感染対策マニュアルに基づいて行動できる	介護員	3名	令和5年12月1日 ～31日
認知症ケア	カンフォータブル・ケアを通して、質の高いケアに繋げることができる	看護師 介護員	53名	令和5年12月18日
【e-ラーニング】 1年の振り返り (ラダーⅠ)	自己の看護を振り返り、看護師としての成長を自覚する	看護師	1名	令和6年1月9日 ～31日
【e-ラーニング】 1年の振り返り (ラダーⅡ)	日々の看護実践を振り返り、自己の成長に気づくとともに、次年度の課題を明確にする	看護師	2名	令和6年1月9日 ～31日
【e-ラーニング】 感染対策 (ラダーⅠ～Ⅲ)	レベルⅠ：マニュアルに基づいて行動する レベルⅡ：危険を予測し、看護を実践する レベルⅢ：主体的に行動し、問題提起する	看護師	6名	令和6年1月9日 ～31日
静脈注射② (ラダーⅠ)	静脈注射を安全に実施するための知識・技術を習得する	看護師	1名	令和6年2月27日
後輩育成① (ラダーⅡ)	プリセプターとして新人看護師の不安を取り除き、職場にスムーズに適応するための支援を理解する	看護師	1名	令和6年2月28日
終末期ケア	人生の最期まで住み慣れた居室で過ごすために入所者を支え、穏やかな最期を迎えられるよう終末期ケアの専門的知識・技術を習得する	看護師 介護員	205名	2024年3月18日

### 3. 看護学校

教育主事 押尾 知子

#### I. 令和5年度看護学校目標

1. 質の高い教育実践
  - 1) 新カリキュラムを適切に運用する
  - 2) 看護師国家試験合格率100%を達成する
  - 3) 臨床と連携し、効果的な実習指導を行う
  - 4) 研究授業を実施する
  - 5) 学内授業参観の実施
  - 6) 研究に取り組み研究成果を発表する
2. 基礎学力の高い入学生の確保と当園への就職者確保
  - 1) 准看護学校訪問を実施する（東京・埼玉を中心）
  - 2) 学校説明会の実施（WEB・対面）
  - 3) ホームページの更新は1回/以上
  - 4) 就職率100%を達成する
3. 働きやすい職場環境づくり
  - 1) 業務改善と連携
  - 2) 円滑なコミュニケーション
  - 3) 健康診断受診率（人間ドック含む）100%
4. ワークライフバランス
  - 1) 年次休暇取得 令和5年度 5日以上
  - 2) 定時退庁（毎週水・金）への取り組み
  - 3) 超過勤務時間削減（対前年度減）

#### II. 教育計画（2023年4月～2024年3月）

月 日	内 容
4月4日	始業式
4月6日	入学式 第56回生 10名 入学
4月19日	健康診断（2年生）
4月25日	健康診断（1年生）
5月25日	防災訓練
6月17日	里帰り企画（卒業生来校） 学校説明会（Web）
7月3日	学生自治会 七夕（園内短冊飾りつけ）
8月1日	教員夏期研修会
8月2日・3日	学校説明会（対面）
10月12日	学校推薦入学試験

月 日	内 容
11月1日・2日	全生園祭 展示
11月28日	一般入学試験・第2回学校推薦入学試験
1月30日	一般入学追加試験
2月11日	第113回看護師国家試験
3月1日	特別講演「卒業生へ送るメッセージ」 講師：鵜飼 克明（多磨全生園長・学校長）
3月7日	第55回卒業式 第55回生 13名 卒業
3月13日	終業式

## 4. 新型コロナウイルス感染症への対応

感染管理室長 岡 慎一  
感染管理認定看護師 関 由貴子

### 1. 令和5年4月時点での問題点と課題

- 1) 3年間にわたる厳しいコロナ対策による影響
  - ・園内行事は中止または縮小開催が続いていた
  - ・来園者の園内散策も中断されていた
- 2) 入所者のコロナ感染に伴う重症化の懸念
  - ・デルタ株と比較してオミクロン株では重症化リスクの低下が示唆されているが、高齢者ではウイルス性肺炎や基礎疾患の悪化なども懸念される
  - ・今後も流行の波は繰り返すことが予想される
- 3) 感染対策をとりながら、少しでも入所者の希望を叶えられるか
  - ・入所者同士の交流の再開が強く望まれている
  - ・しかし、入所者が楽しみにしているカラオケは、最も感染リスクが高い

### 2. 活動内容

- 1) 入所者の希望を叶えつつ、来園者および職員から入所者への感染を防ぐ対策を重視
  - ・入所者同士でのカラオケ、コーラスを可能とする
  - ・入所者同士での会食を可能とする
  - ・来園者および職員の参加については、制限を継続する
- 2) 屋外活動は、密にならなければ可能とする
  - ・納涼祭や全生園まつり等の園内行事を徐々に再開する
  - ・来園者の園内散策を可能とする
  - ・屋外でのマスク着用は個人の判断とする
- 3) 上記対応による園内の感染者発生状況を検証し、更なる緩和に向け検討する

### 3. 実績

- 1) 5類移行後の園内感染対策
  - (1) 面会者対応
    - ①園に事前連絡をいただいた方に限り面会可とする
    - ②1週間前からの健康状態を来園時に確認する（ワクチン接種、PCR検査等の条件は廃止）
    - ③面会者は原則2名までとし、面会時間の制限は解除
  - (2) 施設利用者等の対応
    - ①実習生、取材者、屋内の施設見学者等は、一週間前からの健康状態を確認する（所定の「健康状態申告書」を提出）

②屋外の散策については制限なし（団体の場合は事前申請が必要）

(3) 園内行事

①納涼祭

- ・業者の打ち上げ花火を再開
- ・入所者の親族や友人等の招待可（事前予約制）
- ・入所者の観覧席とは別のエリアに一般観覧席を用意

②全生園まつり

- ・カラオケ大会を再開（歌い手は入所者に限定）
- ・屋台（3店舗）、福引き大会を再開

(4) 入所者のレクリエーション

- ①入所者同士でのカラオケ、コーラス等に関して制限を解除
- ②入所者同士での会食に関して制限を解除（職員との会食は不可）

(5) 職員が陽性者・濃厚接触者となった場合の対応

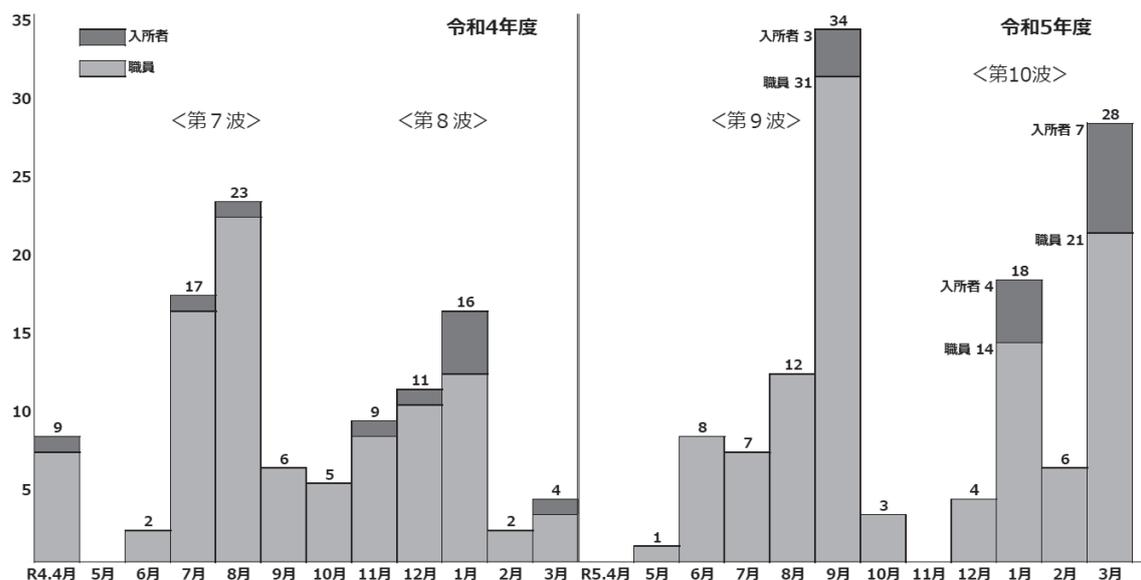
①陽性者

- ・入所者と接する業務の職員は、発症の翌日から10日間出勤不可
- ・入所者と接しない業務の職員は、発症の翌日から5日間出勤不可（6日目・7日目は抗原検査陰性であれば勤務可）

②濃厚接触者

- ・園で出勤時に抗原検査を行い、陰性であれば出勤可（発症の翌日から4日間は、毎日検査を実施）
- ・濃厚接触7日目までは、入所者と接触する業務に制限あり

2) 園内の感染者発生状況



	令和4年度	令和5年度
入所者	10名 (8.9%)	14名 (14.1%)
職員	94名 (23.5%)	107名 (26.8%)



## Ⅱ 行事・園外からの受入・研修等報告



## 1. 令和5年度 国立療養所多磨全生園主要行事表

月	行事名	実施日時	備考
4月	職員紹介（観桜会）	4月4日（火）午後1時30分～	
	看護学校入学式	4月6日（木）午前10時30分～	
5月	園内歩け歩け運動	5月10日（水）午後1時30分～	
8月	納涼祭	8月3日（木）	
9月	敬老の日記念式典	9月7日（木）午後1時30分～	
	墓参	9月21日（木）午後1時30分～	
	全生園まつり（演芸）	9月下旬～10月17日迄	
10月	合同慰霊祭	10月4日（水）午後1時30分	
	全生園まつり （センターコーラス）	10月17日（火）午後1時30分	
11月	全生園まつり	11月1日（水）～11月3日（金）迄	
	焼き芋会	11月15日（水）午後1時30分	
	コ・メディカル学術集会	11月17日（金）～18日（土）	会場：国立駿河療養所
3月	看護学校卒業式	3月7日（木）午前10時～	
	墓参	3月13日（水）午後1時30分	

## 2. 主要な視察状況（令和5年度）

来園者	年月日	備考
濱地厚生労働副大臣	2023年10月10日	厚生労働副大臣秘書官、医政局長、大臣官房審議官、医療経営支援課長、難病対策課長、国立ハンセン病療養所対策室長、政策医療推進官、国立ハンセン病療養所対策室長補佐、難病対策課長補佐

### 3. 看護学生実習・施設見学・研修等施設利用許可状況

#### 1. 実習受け入れ状況

##### 1) 国立ハンセン病療養所附属看護学校

	学校名	実習者数	実習名	受け入れ期間	実習場所
1 学年	国立ハンセン病療養所 附属看護学校	10名	基礎看護学	R5年10月17日 ～10月31日	1 病棟 やすらぎ病棟
2 学年	国立ハンセン病療養所 附属看護学校	13名	老年看護学	R5年 8月29日 ～9月13日 9月26日～10月14日	1 病棟 やすらぎ病棟
		13名	在宅看護論	R5年 9月25日 ～10月11日 11月7日～11月22日	第1センター 第3西センター 治療棟 一般寮支援室

##### 2) その他

	学校名	実習者数	実習名	受け入れ期間	実習場所
1	国際福祉大学	3名	看護学統合実践実習	R5年6月1日 ～6月14日	第1センター 第3西センター やすらぎ病棟
2	上智大学 総合人間科学部 看護学科	6名	基礎看護学統合実習	R5年8月22日 ～8月29日	第1センター 第3西センター やすらぎ病棟

#### 2. 研修受け入れ状況

##### 1) 国内研修受け入れ状況（講義含む）

	研修名	研修人数	受け入れ期間	施設名
1				

##### 2) 海外研修受け入れ状況 なし

	研修名	研修人数	受け入れ期間	国名	受入機関
1					

### 3. 研修・見学等、その他施設利用状況

#### 1) 申請数

月	研修・見学等		その他施設利用者	
	件数	人数	件数	人数
4	0	0	1	14
5	1	45	2	27
6	3	104	5	148
7	0	0	3	133
8	1	13	4	90
9	0	0	6	90
10	5	142	4	147
11	9	306	6	199
12	9	296	3	52
1	7	288	5	149
2	5	172	3	42
3	13	339	4	59
合計	53	1,705	46	1,150

総合計件数	総合計人数
99	2,855

#### 2) 申請属性件数

属性	研修・見学等		その他施設利用者	
	件数	人数	件数	人数
NPO			21	391
保育園			3	129
企業	2	22	1	107
教職員				
公務員	3	80		
任意団体	8	196	2	29
法曹界				
宗教団体	1	20	3	40
小学生	8	625	1	32
中学生	1	13		
高校生	5	140		
大学生、大学院生	7	205		
看護系教育機関	4	115		
労働組合	1	12		
報道機関				
一般市民			15	422
人権啓発団体	6	130		
園職員、学芸員等				
医療機関	1	20		
障害者支援施設				
民政委員	5	107		
教育委員会	1	20		
P T A				
福祉系教育機関				
医薬系教育機関				
合計	53	1,705	46	1,150

#### 3-1) 研修・見学等利用者内訳

◎ 入所者等語り部有り

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	学芸員 対応
1	5月19日	杏林大学医学部	大学生、大学院生	45	園内	医学教育のため	○
2	6月9日	杏林大学医学部	大学生、大学院生	45	園内	医学教育のため	○
3	6月16日	杏林大学医学部	大学生、大学院生	45	園内	医学教育のため	○
4	6月23日	筑波大学医学群医学類4年	大学生、大学院生	14	園内	医学教育のため	○
5	8月21日	東村山第一中学校	中学生	13	園内	人権学習のため	○
6	10月18日	代々木メディカル進学舎	看護系教育機関	13	園内	自由研究のため	○
7	10月22日	国立ハンセン病資料館	公務員	23	園内	企画展「ライ予防法闘争」の理解を深める	×
8	10月26日	松戸人権擁護委員協議会	人権啓発団体	21	園内	人権擁護の研修	○
9	10月31日	清瀬市立芝山小学校	小学生	65	園内	人権学習のため	○
10	10月31日	健和病院友の会団地診療部支部	医療機関	20	園内	委員の研鑽のため(人権)	○

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	学芸員 対応
11	11月2日	さいたま人権擁護委員協議会 西部部会	人権啓発団体	25	園内	人権研修の一環として	○
12	11月2日	東村山市立東萩山小学校	小学生	79	園内	人権学習のため	○
13	11月8日	海老名市相談委員協議会	民政委員	16	園内	委員の研鑽のため(人権)	○
14	11月8日	柏市私立認可保育園協議会	任意団体	30	園内	人権学習のため	○
15	11月8日	東久留米市市民大学	任意団体	43	園内	大学講座の一環として(人権学習)	○
16	11月10日	千葉県松戸市東部地区民生委 員児童委員協議会	民政委員	31	園内	人権学習のため	○
17	11月11日	早稲田大学文化構想学部	大学生、大学院生	36	園内	人権学習のため	○
18	11月29日	土浦市二中地区区民児協	民政委員	26	園内	人権研修のため	○
19	11月30日	聖公会 聖フランシス礼拝堂	宗教団体	20	聖エリザベツ 礼拝堂	人権の学び	○
20	12月1日	住友電気工業横浜製作所	企業	10	園内	人権研修のため	○
21	12月2日	東京都保健生協練馬東支部	任意団体	15	園内	人権学習のため	○
22	12月3日	国際ファッション専門職大学	大学生、大学院生	10	園内	人権学習のため	○
23	12月6日	匝瑳人権擁護委員協議会	人権啓発団体	15	園内	人権研修のため	○
24	12月6日	町田市立南成瀬小学校	小学生	75	園内	人権教育	○
25	12月12日	東村山市立野火止小学校	小学生	93	園内	人権学習のため	×
26	12月12日	専門学校日本医科学大学校 看護師科	看護系教育機関	33	園内	人権学習のため	○
27	12月14日	専門学校日本医科学大学校 看護師科	看護系教育機関	33	園内	人権学習のため	○
28	12月19日	三菱人権啓発連絡会C分科会	企業	12	園内	人権学習のため	○
29	1月16日	埼玉県立常盤高等学校	高校生	42	園内	人権学習のため	○
30	1月17日	東京人権啓発企業連絡会	人権啓発団体	11	園内	人権学習のため	○
31	1月23日	埼玉県立常盤高等学校	高校生	42	園内	人権学習のため	○
32	1月24日	東村山市立萩山小学校	小学生	78	園内	人権学習のため	×
33	1月25日	小平市立第九小学校	小学生	88	園内	人権学習のため	×
34	1月26日	富士見市民生委員児童委員協議会	民政委員	17	園内	人権学習のため	×
35	1月28日	創価大学 碓井ゼミ	大学生、大学院生	10	園内	人権学習のため	×
36	2月1日	法政第二高等学校	高校生	26	園内	人権学習のため	×
37	2月11日	清掃・人権交流会	人権啓発団体	30	園内	人権学習のため	○
38	2月21日	聖心女子学院	高校生	20	園内	人権学習のため	○
39	2月27日	古河市立古河第二小学校	小学生	76	園内	人権学習のため	○
40	2月27日	東大和市青少年対策第四地区 委員会	教育委員会	20	園内	人権学習のため	×
41	3月5日	川口市立看護専門学校	看護系教育機関	36	園内	人権学習のため	○
42	3月5日	日本電気協会新聞部	任意団体	11	園内	研修活動のため(人権)	○
43	3月6日	目黒区民生児童委員協議会東 部第1地区	民政委員	17	園内	人権学習のため	○
44	3月8日	東京法務局人権擁護委員協議会	公務員	30	園内	人権学習のため	×
45	3月10日	日野市ハンセン病問題から学 ぶ会	人権啓発団体	28	園内	人権学習のため	×
46	3月14日	山梨県民主医療機関連合会	任意団体	40	園内	人権学習のため	×
47	3月15日	八王子学園高等学校	高校生	10	園内	人権学習のため	○
48	3月16日	東京民医労健友会支部	労働組合	12	園内	人権学習のため	×
49	3月18日	東村山市立青葉小学校	小学生	71	園内	人権学習のため	×
50	3月21日	五十嵐やす子と未来へ	任意団体	17	園内	人権学習のため	○
51	3月24日	東村山市聴覚障害者協会	任意団体	30	園内	ハンセン病の理解を深める	○
52	3月28日	特定非営利活動法人大人の学校	任意団体	10	園内	人権学習のため	○
53	3月30日	国立ハンセン病資料館	公務員	27	園内	企画展をとおしてハンセン病の理 解を深める	×

3-2) その他施設利用者内訳

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	学芸員 対応
1	4/1~4/30	全生園テニスクラブ	一般市民	14	テニスコート	テニスコート使用	×
2	5月25日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	13	柿舎・山吹舎・ 耕作地他	山吹舎定期清掃・畑作業(除草・耕作 物手入れ)	×
3	5/1~5/31	全生園テニスクラブ	一般市民	14	テニスコート	テニスコート使用	×
4	6/1~6/30	全生園テニスクラブ	一般市民	14	テニスコート	テニスコート使用	×
5	6月5日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	12	柿舎・花壇・東 側畑作業	畑、花壇等の手入れ作業	×
6	6月16日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	100	耕作地	園児(あおば・花さき)じゃがいも掘 り	×
7	6月22日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	12	柿舎・花壇・東 側畑・山吹舎清 掃	畑、花壇の手入れ・山吹舎清掃	×
8	6月30日	土の根会 花さき保育園	保育園	10	納骨堂	納骨堂清掃	×
9	7月20日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	13	柿舎・山吹舎・ 耕作地他	山吹舎定期清掃・畑作業(除草・耕作 物手入れ)	×
10	7/23~8/27	田中昭五	一般市民	100	北門脇雑木林	夏休み子供ラジオリ体操	×
11	7/1~7/31	全生園テニスクラブ	一般市民	20	テニスコート	テニスコート使用	×
12	8月4日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	50	全生園	人権の森絵画展のための写生	×
13	8月4日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	10	柿舎・山吹舎・ 耕作地他	畑作業(除草・耕作物手入れ)・山吹 舎清掃	×
14	8月24日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	10	柿舎・山吹舎・ 耕作地他	畑作業(除草・耕作物手入れ)・山吹 舎清掃	×
15	8/1~8/31	全生園テニスクラブ	一般市民	20	テニスコート	テニスコート使用	×
16	9月14日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	15	山吹舎・耕作地 他	畑作業(除草・耕作物・花木等の手入 れ)・山吹舎清掃	×
17	9月20日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	10	中央集会場	多磨全生園絵画展応募作品受付作業	×
18	9月28日	立正佼成会 東村山教会	宗教団体	10	納骨堂	慰霊供養	×
19	9月29日	天理教むさしの支部	宗教団体	20	全生園	除草作業、植木剪定作業	×
20	9月20日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	15	中央集会場	多磨全生園絵画展審査会	×
21	9/1~9/30	全生園テニスクラブ	一般市民	20	テニスコート	テニスコート使用	×
22	10月7日	土の根会 花さき保育園	保育園	102	全生園空き地 (正門右)	運動会開催時の自転車置き場として	×
23	10月19日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	15	山吹舎・耕作地 他	畑作業(除草・耕作物・花木等の手入 れ)・山吹舎清掃	×
24	10/1~10/31	全生園テニスクラブ	一般市民	20	テニスコート	テニスコート使用	×
25	10月27日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	10	中央集会場・ 公会堂	全生園まつり作品展示準備	×
26	11/1~11/30	全生園テニスクラブ	一般市民	20	テニスコート	テニスコート使用	×
27	11月10日	社会福祉法人 東京コロニー	企業	107	本館前駐車場 周辺	大型バス乗降に利用	×
28	11月13日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	15	中央集会場	多磨全生園絵画展・応募作品の返却 作業	×
29	11月15日	東村山市立青葉小学校	小学校	32	納骨堂・山吹舎	納骨堂・山吹舎の清掃	×
30	11月22日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	15	山吹舎・耕作地 他	畑作業(除草・耕作物・花木等の手入 れ)・山吹舎清掃	×
31	11月29日	天理教むさしの支部	宗教団体	10	全生園	除草作業、植木剪定作業	×
32	12/1~12/31	全生園テニスクラブ	一般市民	20	テニスコート	テニスコート使用	×
33	12月5日	のしお保育園	保育園	17	全生園	散歩	×

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	学芸員 対応
34	12月21日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	15	納骨堂・山吹 舎・耕作地他	納骨堂・畑作業(除草・耕作物・花木等 の手入れ)・山吹舎清掃	×
35	1/1~1/31	全生園テニスクラブ	一般市民	20	テニスコート	テニスコート使用	×
36	1月12日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	10	中央集会場	多磨全生園絵画展・入選作品額入れ 作業	×
37	1/18~1/20	東村山市経営政策部	一般市民	50	さくら公園	プレーパークの開催	×
38	1月24日	特定非営利活動法人 さくらのいろ	NPO	19	全生園	散策	×
39	1/26~1/28	東村山市経営政策部	一般市民	50	さくら公園	プレーパークの開催	×
40	2/1~2/28	全生園テニスクラブ	一般市民	20	テニスコート	テニスコート使用	×
41	2月22日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	12	山吹舎・耕作地 他	樹木の手入れ・山吹舎清掃	×
42	2月29日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	10	柿舎前・中央通 り花植ブロッ ク	彼岸桜植樹・花苗植え	×
43	3/1~3/31	全生園テニスクラブ	一般市民	20	テニスコート	テニスコート使用	×
44	3月13日	青葉ゴルフ会	任意団体	15	全生園入り □□ータリー	バス乗降に利用	×
45	3月25日	特定非営利活動法人 東村山活き生きまちづくり	NPO	10	防火水槽周辺	樹木剪定・除草作業	×
46	3月26日	明石高校首都圏同窓会	任意団体	14	全生園	散策	×

#### 4. ボランティア受入状況等

	実施日時等	項目（名称）	団体名	人数	主な内容
1	週1回 不定期	陶芸	全生園 陶芸倶楽部	5名	陶芸通じて親睦をはかる
2	週1回 不定期	折り紙	四季の折り紙 の会	2～5名	折り紙通じて親睦をはかる
3	年間を通し、適宜	環境整備	東村山生き生 きまちづくり	10～15名	樹木の剪定、農耕地環境 整備、他
4	年間を通し、適宜	環境整備	天理教 むさしの支部	10～20名	樹木の剪定、除草作業、 清掃作業、他
5	年間を通し、適宜	環境整備	天理教武神分 教会	5名	植木剪定、除草作業、他
6	年間を通し、適宜	環境整備	全生テニスク ラブ	15～20名	テニスコートの除草作業、 清掃作業、他
7					

## 5. 研究活動、研修参加、倫理審査委員会状況

### 1. 研究発表

1) 施設内発表 なし

2) 施設外発表

番号	題名	発表者（所属）	学会名等（場所）	発表年月日
1	爪外来での統一した専門的な爪ケアができる看護師のためのマニュアル作成の試み	山上 由美	第35回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（時之栖御殿場 高原ホテル）	令和5年11月17・ 18日
2	ハンセン病療養所の耳鼻科応援作業業務における 外来看護師の育成	竹内 文	第35回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（時之栖御殿場 高原ホテル）	令和5年11月17. 18日
3	解決困難な苦しみを抱えた方との関わり	白石 綾子	第35回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（時之栖御殿場 高原ホテル）	令和5年11月17. 18日
4	ハンセン病療養所の介護長が管理業務を行う上で 感じている困難と対処	岩崎 徹也	第35回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（時之栖御殿場 高原ホテル）	令和5年11月17. 18日

## 2. 研修参加状況

### 1) 施設内参加状況 (看護研究会・病院主催等)

研修会名	研修内容 (目的)	研修期間	職種	参加人員
令和5年度第1回感染対策研修「エイズからハンセン病へ」	内容 感染症について正しい知識を持ち、差別偏見なく感染者に接するための基本姿勢について 方法 園内講師による講義受講、またはVTR視聴、事後課題 (要点テスト)	令和5年10月2日	全職員	会場:57名 VTR視聴: 325名
令和5年度第2回感染対策研修「新しい薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランと標準予防策」	内容 ①薬剤耐性 (AMR) 対策について ②標準予防策 方法 園内講師による講義の受講またはVTR視聴、事後課題 (要点テスト)	令和6年1月24日	全職員	会場:100名 VTR視聴: 273名
第1回医療安全研修 AED・エアーストレッチャー研修	全職員が、AEDを正しく取り扱うことができる エアーストレッチャーの使用方法が理解できる	令和5年12月16日	全職種	参加者24名 伝達175名
第2回医療安全研修 Eコール研修	緊急時に各部署が協働して対応ができる	令和6年2月20日	全職種	参加者43名 伝達155名 (現在も伝達 進行中)
診療放射線の安全利用 研修	診療放射線に係る安全管理体制について理解する	令和5年7月11日 令和5年7月14日 令和5年11月11日 ～11月24日 (e-ラーニング形式)	診療放射線に関わる医師・ 看護師・放射 線技師	放射線技師 3名 医師33名 看護師133名
R5年度 輸液ポンプシ リンジポンプ研修	輸液ポンプ・シリンジポンプを、正しく操作することができる	令和6年3月7日	看護師	18名 伝達106名
R5年度 心電図モニター研修	心電図モニターの基本について理解する	令和6年3月27日	看護師	25名 伝達97名

### 2) 施設外参加状況

#### (1) 厚生労働省・厚生局関係

研修会名	研修内容 (目標)	主催	職種	研修期間	参加人数
令和5年度副看護部長 新任研修	新任副看護部長として業務上必要な管理面の知識を高め、管理者としての能力の向上を図る	国立病院機構 関信グループ	副看護部 長	令和5年6月1日 令和5年12月15日 発表、ディスカ ッション	1名
令和5年度副看護師長 新任研修	講義及び演習を通じて管理面での知識・技術を高めるとともに、看護管理者としての視野を広げ、管理能力の向上を図る	国立病院機構関信 グループ	副看護師長	令和5年 6月16・17日 12月8・9日	1名
令和5年度実習指導者 講習会	看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識・技術を修得することにより、実習指導体制の向上と均質化を図る	国立病院機構 関信グループ	看護師	令和5年7月6日 ～9月19日 7月6日～8月23日 はe-ラーニング	2名

研修会名	研修内容（目標）	主催	職種	研修期間	参加人数
令和6年度保健師助産師看護師実習指導者講習会	看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識・技術を修得することにより、実習指導体制の向上と均質化を図る	国立看護大学校	看護師	Web 令和5年 9月13日～9月27日 10月11日～10月24日 11月6日～11月17日	2名
令和5年度国立ハンセン病療養所看護管理マネジメント研修	国立ハンセン病療養所の入所者への認知症および高齢者ケアの質の向上を通して、看護管理能力の向上を図る	厚生労働省医政局	副看護師長	令和5年 7月6日～9月19日 7月6日～8月24日 はe-ラーニング	2名
令和5年度国立ハンセン病療養所介護員研修	介護員の役割と責任を再認識するとともに業務遂行上必要な知識・技術・態度の向上を図る	厚生労働省医政局	介護員	令和5年10月 ～11月(DVD視聴) 令和5年11月1日 ～11月24日 (各施設で実施) 令和5年12月7日 GW (Web)	2名
令和5年度医療安全対策研修Ⅰ	医療機関における医療安全管理者に必要な基本的知識・技術について習得し、自施設の医療安全の質を保障する役割を担える能力を養う	国立病院機構関信グループ	看護師長	eラーニング 令和5年6月6日 ～20日 集合(LIVE配信) 7月13日	1名
看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	良質な看護サービスの提供と効率的な業務運営を目的として看護補助者の業務範囲や教育及び就労環境について理解し、自病院における看護補助者の更なる活用のために必要な看護管理者としての能力を養う	独立行政法人国立病院機構	副看護師長	eラーニング 令和5年8月21日 ～9月21日 集合(LIVE配信) 10月10日	1名
看護師長施設間交流研修	他施設にて看護管理の実際を学ぶことにより、看護管理者としての視野を広げるとともに、看護師長としての管理能力の向上を図る	全国国立病院看護部長協議会 関東信越支部	看護師長	令和5年11月13日 ～15日	1名
副看護師長施設間交流研修	他施設にて看護管理の実際を学ぶことにより、看護管理者としての視野を広げる	全国国立病院看護部長協議会 関東信越支部	副看護師長	令和5年9月6日 ～8日	2名
令和5年度認知症ケア研修	認知症患者の理解を深め、患者・家族を支援するために必要な看護実践力の向上を図ると共に地域を含めた患者・家族の介入に携わる多職種チームと協働・連携し中心的役割を果たせる能力を養う	国立病院機構関信グループ	看護師	eラーニング 令和5年1月10日 ～20日 集合(LIVE配信) 1月24日	1名
令和5年度認知症ケア研修	重症心身障害者及び筋ジストロフィー等神経筋・難病の患者・利用者に対する虐待防止体制の更なる推進を目指した研修とする	国立病院機構関信グループ	看護師	45227	1名
令和5年度中堅看護教員・看護師長研修研修	職場の活性化に向けて、自己の役割や課題を明確にするとともに看護教員・看護師長としての資質、能力向上を図ることを目的とする	国立病院機構関信グループ	看護師長	45240	1名
令和5年度看護職員教育担当者研修	看護職員研修における教育担当者の責任と役割を自覚する	国立病院機構関信グループ	看護師長	令和5年10月31日 ～11月1日	1名

研修会名	研修内容（目標）	主催	職種	研修期間	参加人数
令和5年度性的指向・ジェンダーアイデンティティの多様性に関する勉強会	人事担当者・ハラスメント担当者などを含む全ての職員に対し、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する基礎知識等を習得する	国立病院機構 関信グループ	看護部長 副看護部長 看護師長 副看護部長	令和5年1月11日	9名
令和5年院内感染対策研修	院内感染対策に関する基本的な知識・技術等を習得するとともに、個々の職員の資質向上と関連部門との連携の強化を図る	国立病院機構 関信グループ	看護師介護 長	令和5年1月22日	1名
令和4年度アンガーマネジメント研修	患者及びその関係者と病院職員とのトラブルについて、担当する職員がアンガーマネジメントを学ぶことによりトラブル対処方法を習得し、担当職員の精神的負担を軽減及び業務を円滑に遂行する	国立病院機構 関信グループ	副看護部長	令和5年2月21日	1名
令和4年院内感染対策研修	院内感染対策に関する基本的な知識・技術等を習得するとともに、個々の職員の資質向上と関連部門との連携を強化する	国立病院機構 関信グループ	看護師	令和5年3月6日	1名

#### (2) 個人（自費）にて参加した研修

研修会名	研修内容（目標）	主催	職種	研修期間	参加人数
認知症看護認定看護師教育課程	認知症看護分野において、個人、家族及び集団に対して、高い臨床推論力と病態判断力に基づき、熟練した看護技術及び知識を用いて水準の高い看護を実践する能力を育成する	公益社団法人日本 看護協会研究学校	看護師	令和5年4月4日～ 令和6年3月24日	1名

#### (3) 県・市主催関係

研修会名	主催	研修期間	参加人員

#### (4) 日本看護協会関係

研修会名	主催	研修期間	参加人員	参加人員
人材育成	東京都看護協会多摩北地区支部	令和5年5月6日	1	2
メンタルヘルス	東京都看護協会多摩北地区支部	令和5年7月1日	7	1
防災	東京都看護協会多摩北地区支部	令和5年6月10日	3	1
高齢者看護Ⅰ	東京都看護協会多摩北地区支部	令和5年10月7日	3	2
高齢者看護Ⅱ	東京都看護協会多摩北地区支部	令和5年11月4日	2	1
新人教育	東京都看護協会多摩北地区支部	令和5年2月3日	1	1

(5) その他

研修会名	主催	研修期間	参加人員
令和4年度 保健師助産師看護師実習指導者講習会	国立看護大学校研修部	令和5年9月13日～9月27日 10月11日～10月24日 11月6日～11月17日	2名
令和5年度看護師等実習指導者講習会	独立病院機構	令和5年7月6日～9月19日	2名
令和5年度 看護師認知症対応力向上研修Ⅰ	独立行政法人 東京都健康長寿医療センター	令和5年7月28日	1名
令和5年度 看護師認知症対応力向上研修Ⅱ	独立行政法人 東京都健康長寿医療センター	令和5年8月20日	1名

(6) 座長・講師等

研修会名	氏名（職責）	座長・講師	研修日
横浜市立聖灯看護学校心とからだの健康（アロマテラピー）	山上由美（治療棟看護師）	講師	令和5年 5月24日～6月7日
第45回ハンセン病医学夏期大学講座	菅谷恵美（看護師長）	講師	令和5年9月20日
第45回ハンセン病医学夏期大学講座	菅谷恵美（看護師長）	講師	令和5年9月21日
第45回ハンセン病医学夏期大学講座	菅谷恵美（看護師長）	講師	令和5年9月21日
令和4年度国立ハンセン病療養所看護管理マネジメント研修	梅津珠子（看護部長）	講師	令和5年10月11日
令和4年度国立ハンセン病療養所看護管理マネジメント研修	高橋八重子（副看護部長）	講師	令和5年10月11日
第77回国立病院総合医学会	高橋八重子（副看護部長）	座長	令和5年10月21日
ハンセン病看護	梅津珠子（看護部長）	講師	令和5年2月29日

3) 研究業績・研修参加状況

1. 施設内研修

押尾知子・軽部太一・山谷なぎさ・原口稔・大家枝利・金井千絵・市村清香・安達ふみ

- 1) 情報セキュリティ研修
- 2) エイズからハンセン病へ
- 3) 公文書管理
- 4) NST研修
- 5) 自衛消防に関する教育研修（押尾知子・山谷なぎさ）

2. 施設外研修

1) 厚生労働省・国立病院機構

(1) 押尾知子・軽部太一・山谷なぎさ・原口稔・大家枝利・金井千絵・市村清香

令和5年度NHO関東信越グループ夏期研修会

講演：「ハラスメントのない学校づくり」

講師：御輿久美子 先生

NAAH（NPOアカデミックハラスメントをなくすネットワーク）代表理事

(2) 軽部太一

令和5年度 中堅看護教員・看護師長研修

講義・演習「職場の活性化～対話ある職場を目指す～」

講師：鈴木晶夫先生

早稲田大学 人間科学学術院 名誉教授

2) その他の研修参加状況（自費）

(1) WEB研修会（看護ラボラトリー主催）

市村清香：第1回 看護診断セミナー（初級コース）「看護診断 基本から見直そう」

市村清香・山谷なぎさ：第2回 看護診断セミナー（中級コース）

「看護診断 アセスメント力をアップしよう」

(2) WEB研修会（メディックメディア主催）

「臨床判断能力の育成を意識したフィジカルアセスメント教育」

軽部太一・金井千絵・市村清香

(3) WEB研修会（メディックメディア主催）

「永田先生直伝！実習記録添削力強化セミナー」

軽部太一・山谷なぎさ・原口稔・金井千絵・市村清香

(4) WEB研修会（メディックメディア主催）

「学年を横断して丸ごとつながる！基礎看護学の授業設計」

金井千絵

(5) WEB研修会（メディックメディア主催）

「徹底解説！看護過程と臨床判断能力」

軽部太一・金井千絵・市村清香

(6) WEB研修会（医学書院主催）

「看護を教える人が「倫理」をどう伝えるか」

金井千絵

(7) WEB研修会（医学書院主催）

「臨床判断能力の育成に向けた教育実践」

金井千絵

<研究授業実施・参加状況>

1) 実施

山谷なぎさ 「診療に伴う技術演習」 自校5名参加

<学術集会等への参加>

なし

<看護教員インターンシップ実施状況>

参加者なし

4) 令和5年度 園内研修会参加状況 (2023/4/1～2024/3/31)

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
第1回医療安全研修会	R5.7.14	福祉サービス棟3階 研修室ABC	医療安全推進部会	医療安全	西巻奈津子、平本研二
第1回医療安全研修会伝達講習会	R5.8.29	検査科 カンファレンスルーム	医療安全推進部会	医療安全	荘司 路、立川康則、望月規央、渡邊孝浩 西巻奈津子、平本研二
第1回感染対策研修	R5.10.2	福祉サービス棟3階 研修室ABC	園内感染対策委員会	感染対策	荘司 路、立川康則、西巻奈津子、渡邊孝浩
第1回感染対策研修 VTR視聴	R5.10.6～10.31	VTR視聴	園内感染対策委員会	感染対策	望月規央、平本研二
NST研修会「栄養障害につながる 異常の早期発見」	R5.10.23	福祉サービス棟3階 研修室ABC	NST委員会	栄養管理	荘司 路、立川康則、望月規央
NST研修会「栄養障害につながる 異常の早期発見」	R5.11.27	福祉サービス棟3階 研修室ABC	NST委員会	栄養管理	平本研二
カンファクターブル・ケア	R5.12.18	福祉棟3FABC (第2会議室)	認知症ケアチーム部会& 看護部教育委員会	ケアチーム ・看護部	荘司 路、立川康則、西巻奈津子
2023年度第2回感染対策研修	R6.1.24	福祉サービス棟3階 研修室ABC	園内感染対策委員会	感染対策	荘司 路、立川康則、西巻奈津子、渡邊孝浩
2023年度 第2回感染対策研修VTR視聴	R6.2.2	VTR視聴	園内感染対策委員会	感染対策	望月規央、平本研二
2023年度第2回医療安全管理研修会 「E-コール訓練」	R6.2.20	あおば保育園	医療安全推進部会	医療安全	平本研二
2023年度第2回医療安全管理研修会 「E-コール訓練」伝達講習会	R6.3.11～3.21	印刷物による伝達講習	医療安全推進部会	医療安全	荘司 路、立川康則、望月規央、渡邊孝浩 西巻奈津子
カンファクターブル・ケア伝達講習会	R6.3.11～3.25	DVD講習	認知症ケアチーム部会& 看護部教育委員会	ケアチーム ・看護部	望月規央、渡邊孝浩、平本研二

5) 令和5年度 園外研修会参加状況 (2023/4/1～2024/3/31)

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
第7回bioMerieux Syndromic Symposium	5月13日	ハイブリッド開催	ビオメリュー・ジャパン	微生物	荘司 路
第72回 日本医学検査学会 in GUNMA	5月20日～5月21日	Gメックス群馬・高崎芸術劇場	日本臨床衛生検査技師会	全般	荘司 路
知っておきたい肝疾患の現状と課題 ～肝線維化から肝硬変・肝がん～	5月15日～6月30日	Web研修会 (オンデマンド配信)	富士フィルム和光純薬	生理	立川康則
令和5年度第1回国臨協関信支部主催研修会	5月29日～6月30日	Web研修会 (オンデマンド配信)	国臨協関信支部	全般	荘司 路、平本研二、立川康則
令和4年度 第2回国立病院臨床検査技師長協議会 関東信越支部研修会	7月11日	Web (Live配信)	国立病院臨床検査技師長 協議会関東信越支部	管理	荘司 路、平本研二
令和5年度 中間管理職新任研修	7月19日	Web (Live配信)	独立行政法人国立病院機構 関東信越グループ	管理	荘司 路
第3回隣臓USエクスパート養成セミナー	8月18日	Web研修会 (オンデマンド配信)	キャノンメディカルシステ ムズ株式会社	生理	立川康則
令和5年度医療安全対策研修 I	8月21日～9月21日、 10月10日	e-ラーニング40時間 集合型研修 (LIVE 配 信) 5時間	独立行政法人国立病院機構 関東信越グループ	全般	荘司 路
Vitros® XT7600 テクニカルセミナー	8月 24・25日	オーン・クリニカル・ ダイアグノスティッ クス株式会社 エクスパリエンスセ ンター	オーン・クリニカル・ダイア グノスティックス (株)	生化・免疫	望月規央
第51回国臨協関信支部学会	9月3日	オンライン形式	国臨協関信支部	全般	荘司 路、渡邊孝浩、立川康則
令和5年度 臨床検査の精度および品質確保推進研 修	9月22日	Web (Live配信)	独立行政法人国立病院機構 関東信越グループ	全般	荘司 路
令和5年度主任臨床検査技師教育研修	10月4日	国立病院機構本部 講堂	独立行政法人国立病院機構 関東信越グループ	全般	荘司 路 (研修会講師として参加)
令和4年度国臨協関信支部東京地区会Web研修会	10月5日	オンライン形式	国臨協関信支部東京地区会	全般	荘司 路、渡邊孝浩、平本研二、 望月規央、立川康則

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
第55回大会 日本医療検査科学会	10月7日	パシフィコ横浜	日本医療検査科学会	全般	荘司 路
第7回微生物検査技術伝承セミナー	10月17日	Web (Live配信)	日本ベクトン・ディキンソン	微生物	荘司 路
第77回国立病院総合医学会	10月18日～10月21日	リーガロイヤルホテル広島 他	国立病院機構	全般	荘司 路
第35回関東甲信越地方会学術集会	2023/10/14.15 (10/23～11/24)	現地開催 (オンデマンド配信)	日本超音波医学会	生理	渡邊孝浩、立川康則
あすか甲状腺セミナー	10月26日	Web開催	あすか製薬株式会社	生理	立川康則
Abbott Hepatitis Seminar	11月10日	Web (Live配信)	アボットジャパン	免疫	荘司 路
ピトスフエア	11月18日	オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックズ本社	オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックズ	全般	荘司 路、西巻奈津子、平本研二
第45回PCR感染症検査研究会	11月24日	Web (Live配信)	PCR感染症検査研究会	遺伝子	荘司 路
2023年度日臨技臨床検査精度管理調査総合報告会	11月25日	幕張メッセ 国際会議場2Fコンベンションホール	日本臨床衛生検査技師会	全般	荘司 路、平本研二
第22回東京都輸血療法研究会	11月27日	東京都庁第一本庁舎5階大会議場	東京都保健医療局	輸血	西巻奈津子
令和5年度第2回国臨協関信支部主催研修会	12月1日～12月28日	Web研修会 (オンデマンド配信)	国臨協関信支部	輸血	荘司 路、平本研二
第18回 東京都医学検査学会	12月3日	秋葉原UDX	東京都臨床検査技師会	全般	荘司 路
令和5年度臨床検査の精度確保および品質マネジメントシステム研修	2024年2月8日 2024年2月22日	Web	国立病院機構本部	管理	荘司 路 (研修会講師として参加)
第35回日本臨床微生物学会総会・学術集会	2月9日～2月11日	パシフィコ横浜 ノース	日本臨床微生物学会	微生物	荘司 路、望月規央
令和5年度臨床検査技師実習技能研修2 (微生物)	2月15日～2月16日	国立病院機構 本部研修センター	国立病院機構本部	微生物	荘司 路、望月規央 (研修会講師として参加) 平本研二

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
第34回全国支部長会議特別講演	R6.2.17	NHO東京医療センター 会議室	国立病院臨床検査協会本部	管理	荘司 路
2023年度都臨技精度管理調査報告会	2月26日	Web開催	東京都臨床検査技師会	全般	望月規央、平本研二
第4回隣臓USエキスパート養成セミナー	3月1日	Web研修会 (オンデマンド配信)	キャノンメディカルシステムズ株式会社	生理	立川康則
令和5年度 国臨協関信支部主催症例検討会	3月2日	国立病院機構東京病院 大会議室	国臨協関信支部	全般	平本研二 (現地) 荘司 路、立川康則 (Web)
令和5年度日本医師会臨床検査精度管理調査報告会	3月8日	日本医師会館	日本医師会	全般	望月規央
令和5年度 第1回 国立病院臨床検査技師長協議会 関東信越支部研修会	3月16日	NHO東京医療センター 会議室	国立病院臨床検査技師長協議会	管理	荘司 路、平本研二
第28回 関東甲信越地区マイクロスキャン研究会	3月30日	Web開催	ベックマン・コーポラター株式会社	細菌	荘司 路、平本研二

### 3. 国立療養所多磨全生園ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会状況（令和5年度）

承認番号	課題名	審査結果	実施期間	代表者
05-01	解決困難な苦しみを抱えた方への援助	迅速審査「承認」	2023年4月1日～2023年7月31日	白石 綾子
05-02	爪外来での統一した専門的な爪ケアができる看護師のためのマニュアル作成の試み	迅速審査「承認」	2022年4月9日～2023年10月31日	山上 由美
05-03	ハンセン病療養所の耳鼻科応援業務における外来看護師の育成	迅速審査「承認」	2022年4月9日～2023年10月31日	竹内 文
05-04	食事アンケート調査から見た今後の課題と展望	迅速審査「承認」	2023年6月2日～2024年3月31日	鈴木 旺子
05-05	看護師養成所2年課程の学生が日常生活援助技術の状況設定事例演習において得た学びのレポート	迅速審査「承認」	2023年4月1日～2024年11月30日	大家 枝利
05-06	勤務表作成を通じた副看護師長の管理能力の育成 (～労務管理能力向上をめざして～)	迅速審査「承認」	2023年11月1日～2024年2月29日	高橋八重子
05-07	高齢者の心房細動についての検討	迅速審査「承認」	2024年1月1日～2024年3月31日	汐崎 祐
05-08	ハンセン病療養所A園の不自由者棟で入居者を看取る際の介護員に対する必要な取組 ～在宅看取り家族支援の先行研究からの考察～	迅速審査「承認」	2023年4月1日～2024年11月31日	白石 綾子
05-09	認知症患者の点滴を通して考える終末期医療の課題 ～臨床看護師の視点から～	迅速審査「承認」	承認日～2024年1月29日	岡部 淳子
05-10	水分・副食の摂取不良及び長時間臥床状態であるA氏への取り組み	迅速審査「承認」	2024年2月1日～2024年4月30日	柴田 淳子
05-11	不安緩和のための音楽療法：A氏の事例について	迅速審査「承認」	2024年2月1日～2024年5月31日	吉川 祐子
05-12	高齢者疑似体験を通しての学生の学びと授業効果の検証	迅速審査「承認」	2023年6月1日～2024年3月31日	金井 千絵
05-13	発熱のある患者への与薬の状況設定事例演習で得た学びの分析（仮）	迅速審査「承認」	2023年6月2日～2024年3月31日	山谷なぎさ
05-14	認知症高齢患者の終末期ケアに関わる意思決定支援の取り組み	迅速審査「承認」	2024年2月1日～2024年6月1日	齋藤 洋太
05-15	人生サポート活動の充実 ～サードプレイスが入所者に与えた影響～	迅速審査「承認」	2024年4月1日～2024年5月1日	小林 進一
05-16	少菌型ハンセン病の3例	迅速審査「承認」	2024年4月1日～2024年9月30日	木村 真衣
05-17	看護師養成所2年課程における看護シミュレーション教育の課題 ～教員のインタビュアーを通して～	迅速審査「承認」	2023年6月2日～2024年3月31日	軽部 太一

国立療養所多磨全生園ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会 委員名簿 (R5.5.1)			
職 名	氏 名	備 考	
国立療養所多磨全生園 副院長	岡 慎一	委員長	
国立療養所多磨全生園 総務部長	永田 勝則		
国立療養所多磨全生園 看護部長	梅津 珠子		
国立療養所多磨全生園 医療職（一）代表	村上 龍司		
国立療養所多磨全生園 医療職（二）代表	山崎 英明		
国立療養所多磨全生園 医療職（三）代表	田崎 明子		
国立療養所多磨全生園 行政職（一）代表	府川 良治		
国立感染症研究所ハンセン病研究センター	阿戸 学	規程第4条第1項(1),(2),(3)委員	
法務省人権擁護委員	江藤 佳子		
上智大学法学部	岩田 太		
国立療養所多磨全生園 庶務課長	土師 宏之	事務局	

## 6. 規程の改訂状況（令和5年度）

規程名	年月日	備考（理由等）
拡大購買委員会規程	2023年4月1日	廃止（審査事項が公共調達審査会と重複）
業務委託検討委員会規程	2023年4月1日	廃止（開催実施なし）
競争参加資格審査会規程	2023年4月1日	廃止（審査事項が公共調達審査会と重複）
節電対策委員会規程	2023年4月1日	廃止（平成23年度限定での開催が謳われている）
医療機器中央管理運営委員会規程	2023年4月1日	廃止（開催実績なし）
人生サポート委員会規程	2023年4月1日	組織の変更に伴う充て職の変更
フレックスタイム制及び 休憩時間制度に関する細則	2023年4月1日	新規
栄養管理委員会規程	2023年4月1日	組織の変更に伴う充て職の変更
献立委員会規程	2023年4月1日	組織の変更に伴う充て職の変更
NST委員会規程	2023年4月1日	組織の変更に伴う充て職の変更
技術審査委員会規程	2023年4月1日	構成委員及び記録等担当者の変更
施設整備計画委員会	2023年4月1日	構成委員の変更
ハラスメント調査委員会設置規程	2023年4月1日	人事異動に伴うハラスメント相談員の変更
テレワーク実施要領	2023年5月8日	新規
人権擁護委員会規程	2023年5月30日	開催回数の追加等
病理検体の管理等に関する規程	2023年6月14日	経年に伴う見直し等
感染管理室設置規程	2023年9月19日	役職の追加等
入退所運営規程	2023年11月1日	経年に伴う見直し等
寮籍部会規程	2023年11月1日	メンバーの追加等
人生サポート委員会規程	2023年11月1日	組織の変更に伴うメンバーの変更等
医療機器整備委員会規程	2023年11月24日	構成委員及び運営に関する記述の一部変更
テレワーク実施要領	2024年2月1日	特例項目追加



### Ⅲ 統計資料



# 1. 職員定員・現員、永年勤続授賞者等

## (1) 定員内職員

各年度4月1日現在

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
指定	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
行(一)	18	18	18	18	18	18	22	22	22	21	22	22
行(二)	104	100	102	101	102	100	101	99	98	95	96	97
医(一)	23	11	23	15	23	15	23	16	23	15	23	16
医(二)	30	28	30	27	28	27	27	27	27	26	27	23
医(三)	153	151	153	144	145	136	140	133	137	130	133	120
福祉	5	3	5	3	5	4	5	4	5	4	5	3
教(二)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
計	341	319	339	316	329	308	326	309	320	299	314	289

## (2) 賃金職員・期間業務職員

	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	定員	現員	定員	現員	現員	現員	現員	現員
行(一)	2	2	7	7	7	9	7	8
行(二)	73	32	68	29	24	17	16	16
医(一)								
医(二)								
医(三)								
福祉	4	4	4	4	4	4	4	4
計	79	38	79	40	35	30	27	28

## (3) 令和5年度叙勲授賞者

氏名	在籍時職名	在職期間	叙勲関係	備考
		対象者なし		

(4) 職員の健康管理

令和5年度末 現在職員数	316人	うち40歳以上 36歳以上～39歳 35歳	281人 27人 2人
-----------------	------	-----------------------------	-------------------

① 一般の健康診断

項目	健康診断の受診人員等				指導区分及び事後措置				就業 禁止		
	対象者数	受診 実人員	精密検査 対象者数	精密検査 実施数	経過観察 実施数	指導区分 (医療の面)		勤務上の措置			
						要医療	要観察	休暇又は休職		勤務の軽減かつ時 間外勤務等の制限	
肺	胸部 エックス線検査	281 (39歳以下、医師が必要 ないと認める者を除く)	206 30	0 0	0 0	2 2	7 0	0 0	0 0	0 0	0 0
	喀痰細胞診	14 (39歳以下、医師が必要 ないと認める者を除く)	12 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	血圧測定	全職員数	259 32	0 0	0 0	0 0	2 5	0 0	0 0	0 0	0 0
循環器	血糖検査	283 (35歳、40歳以上 上記以外希望者数)	242 (25)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 6	0 0	0 0	0 0	0 0
	尿検査(蛋白)	全職員数	264 32	0 0	0 0	2 9	0 8	0 0	0 0	0 0	0 0
	尿検査(糖)	全職員数	264 32	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0
	心電図検査	283 (35歳、40歳以上 上記以外希望者数)	206 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 38	0 0	0 0	0 0	0 0
	LDL	283 (35歳、40歳以上 上記以外希望者数)	242 (25)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 7	0 0	0 0	0 0	0 0
	コレステロール検査	283 (35歳、40歳以上 上記以外希望者数)	242 (25)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
	HDL	283 (35歳、40歳以上 上記以外希望者数)	242 (25)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 5	0 3	0 0	0 0	0 0
	コレステロール検査	283 (35歳、40歳以上 上記以外希望者数)	242 (25)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0	0 5	0 0	0 0	0 0
	中性脂肪検査	283 (35歳、40歳以上 上記以外希望者数)	242 (25)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 3	0 0	0 0	0 0	0 0
	貧血検査	283 (35歳、40歳以上 上記以外希望者数)	242 (25)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0	0 4	0 0	0 0	0 0
胃	胃エックス線検査	183 (50歳以上の職員 (各職務上の職が報告年 度内に胃内視鏡検査又は 胃エックス線検査を行 ったこととして認める))	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0	1 5	0 0	0 0	0 0	0 0
	胃内視鏡検査	183 (50歳以上の職員 (各職務上の職が報告年 度内に胃内視鏡検査又は 胃エックス線検査を行 ったこととして認める))	0 (25)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 10	0 3	0 0	0 0	0 0
肝臓	肝機能検査	283 (35歳、40歳以上 上記以外希望者数)	242 (25)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 10	0 3	0 0	0 0	0 0
大腸	便潜血反応検査	281 (40歳以上 39歳以下希望者数)	77 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 5	0 0	0 0	0 0	0 0

② 臨時の健康診断

項目	健康診断の受診人員、所要経費等										指導区分及び事後措置				
	対象者数 人	受診 実人員 人	精密検査 対象者数 人	精密検査 実施数 人	経過観察 実施数 人	職員厚生 経費 円	所要経費		指導区分(医療の面)		勤務上の措置			就業 禁止 人	
							個人負担 経費 円	共済・その他 経費 円	要医療 人	要観察 人	休暇又は休職 人	勤務の軽減かつ時 間外勤務等の制限 人	時間外勤務 等の制限 人		
第21条関係(1)~(8)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
子宮頸がん検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
乳がん検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
情報機器健診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時の健康診断															
採用時の健康診断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員一般定期健康診断	53	47	6	0	0	294,336	0	0	0	0	0	0	0	0	
上記以外の非常勤	(3)	(2)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
総合的な健康診断	316	32	0	0	0	0	1,513,475	1,562,475	0	0	0	0	0	0	
非常勤	(53)	(7)	(0)	(0)	(0)	(0)	(139,150)	(139,155)							
心理的な負担の程度を把握するための検査	316	248	50	0	0	349,888	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤	(53)	(20)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	

保健指導の実施状況

4項目有所見者数	0人
精密検査実施数	0人
保健指導実施数	0人



## 2. 経理関係

### (1) 歳入・歳出決算額

歳入科目	単位：千円
雑収入	17,003
国有財産収入	3,565
諸収入	13,438
歳出科目	単位：千円
国立ハンセン療養所	3,573,526
職員基本給	1,312,478
職員諸手当	615,251
超過勤務手当	103,602
非常勤職員手当	0
短時間職員給与	62,954
児童手当	11,615
施設施工旅費	1,052
施設施工庁費	92,869
施設整備費	209,000
諸謝金	6,148
入所者作業謝金	1,492
入所者給与金	31,848
職員旅費	1,919
研修旅費	0
外国旅費	0
委員等旅費	111
生徒旅費	208
入所者転送等旅費	0
庁費	24,415
情報処理業務庁費	0
入所者療養諸費	855,179
受託研究費	0
医療機器整備費	56,537
医薬品等購入費	104,253
通信専用料	0
各所修繕	804
入所者食糧費	81,569
自動車重量税	222

### (2) 医療機器整備状況

品名	規格・型式	単位：千円
超音波画像診断装置	キヤノンメディカルシステムズ(株) Apollo i700/Prism Edition CV	10,868
仰臥位入浴装置 (ロベリアプラス) 1台	酒井医療(株) ROB-460C	10,296
尿自動分析装置 1台	栄研化学(株) US-2300	1,760
医用画像情報システム	富士フイルムメディカル(株) SYNAPSE Wz-U	24,750
筋電図・誘発電位測定装置	日本光電(株) MEB-9604	6,545

### (3) 施設整備状況

工 事 名	単位：千円
第3西センタースプリングラ―整備工事	97,900
第3西センター管理棟等GHP更新工事	84,700
秋津舎外1棟解体工事	6,956
利根舎外1棟解体工事	6,600
第2面会人宿泊所外2棟解体工事	4,868

### 3. 入所者関係

#### (1) 平成30年度～令和5年度 年度別入所者数

	30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年度未入所者数 (人)	72	85	66	80	57	71	49	68	44	61	37	58
	計	157	146	146	128	128	117	105	105	105	95	95
年度未平均年齢 (歳)	84.3	87.4	84.7	88.2	84.9	88.5	85.2	89.0	85.9	89.2	86.2	89.9
	計	86.0	86.6	86.6	86.9	86.9	87.4	87.8	87.8	87.8	88.5	88.5
再入所者数 (人)	1	0	3	2	8	3	6	1	2	1	1	1
	計	1	5	5	11	11	7	3	3	3	2	2
退所者数 (人)	4	8	9	7	17	12	15	4	10	8	8	4
	計	12	16	16	29	29	19	18	18	18	12	12
死亡者数 (人)	4	8	7	5	10	9	10	4	6	6	7	4
	計	12	12	12	19	19	14	12	12	12	11	11
退所者・社会復帰者数 (人)	0	0	2	2	7	3	5	0	2	1	1	0
	計	0	4	4	10	10	5	3	3	3	3	1
転退所 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0

## (2) 月別推移状況

年月	区分	繰越入所者数	転入再入所者数	転退所者数	死亡者数	月末入所者数	延入所者数	平均入所者数
令和5年.	4	105	1	0	3	103	3,114	103.8
	5	103	0	1	1	101	3,153	101.7
	6	101	0	0	0	101	3,030	101.0
	7	101	0	0	1	100	3,114	100.5
	8	100	1	0	0	101	3,111	100.4
	9	101	0	0	1	100	3,013	100.4
	10	100	0	0	1	99	3,074	99.2
	11	99	0	0	0	99	2,970	99.0
	12	99	0	0	1	98	3,060	98.7
令和6年.	1	98	0	0	2	96	3,013	97.2
	2	96	0	0	0	96	2,784	96.0
	3	96	0	0	1	95	2,964	95.6
	計		2	1	11	1,189	36,400	99.7

## (3) 年齢別人数

(年度末現在)

区分	男	女	計	構成比
70～74歳	2	0	2	2.1%
75～79歳	6	1	7	7.4%
80～84歳	5	11	16	16.8%
85～89歳	11	14	25	26.3%
90～94歳	8	23	31	32.6%
95～99歳	4	5	9	9.5%
100歳以上	1	4	5	5.3%
合計	37	58	95	100.0%

## (4) 在所期間別人数調

(年度末現在)

区分	男	女	計	構成比
5年未満	3	3	6	6.3%
5～10年	3	2	5	5.3%
11～15年	2	1	3	3.2%
16～20年	0	0	0	0.0%
21～25年	2	2	4	4.2%
26～30年	2	2	4	4.2%
31～35年	4	7	11	11.6%
36～40年	2	6	8	8.4%
41～45年	2	1	3	3.2%
46～50年	0	4	4	4.2%
51～55年	3	5	8	8.4%
56～60年	2	6	8	8.4%
61～65年	4	1	5	5.3%
66年以上	8	18	26	27.4%
計	37	58	95	100.0%

(5) 開園〔1909年〕以来年齢別死亡者数調

(年度末現在)

性別	年齢	0～9	10～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59
男		13	75	205	281	357	348	287	224	196	175
女		8	37	58	74	78	90	73	70	66	70
計		21	112	263	355	435	438	360	294	262	245
性別	年齢	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	不詳	計
男		154	165	151	141	128	119	101	3	9	3,132
女		67	51	74	60	77	83	101	13	6	1,156
計		221	216	225	201	205	202	202	16	15	4,288

(6) 月別寮籍別入所者数

(月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1病棟	6	6	9	7	11	6	2	3	2	2	2	2
やすらぎ病棟	12	11	11	10	10	12	12	13	13	11	11	10
第1センター	29	29	29	28	27	28	30	28	29	30	30	30
第3西センター	25	25	24	26	25	25	25	25	25	24	24	24
一般寮	31	30	28	29	28	29	30	30	29	29	29	29
合計	103	101	101	100	101	100	99	99	98	96	96	95

(7) 疾病別死亡患者数統計表 (全科)

【全科】

集計期間：平成30年4月1日～令和6年3月31日

ICD10コード	疾病名	死亡者数					
		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
C20	直腸癌						
C61	前立腺癌	1					
C169	胃癌						
C189	大腸癌						
C220	肝臓癌			2	1		
C221	胆管細胞癌			1		1	
C259	膵臓癌	1			2		
C349	肺癌	1	1			1	1
C549	子宮体癌						
C859	悪性リンパ腫						
D046	右上腕ボーエン病						
D374	大腸腫瘍						
D376	肝腫瘍						
D383	縦隔腫瘍						
D432	脳腫瘍						
G595	頸髄症						
G919	硬膜下水腫						
I 219	急性心筋梗塞						
I255	心筋虚血		1				
I49	その他不整脈				2		
I 500	うっ血性心不全			1			
I509	心不全	1		4	2	1	2
I619	脳出血						1
I635	脳幹梗塞						
I639	脳梗塞	1			1		
I71	大動脈瘤及び解離				1		
J189	肺炎	2	6	2		2	3
J810	肺水腫			1			
J849	間質性肺炎						
J9609	急性呼吸不全		1				
K567	腸閉塞	1		1	1		
K650	急性腹膜炎			1			
K810	胆嚢炎			1			
K922	消化管出血				1	1	1
N178	急性腎不全	1	1	1			
N189	慢性腎不全			1			
R54	老衰	2	2	1	3	6	2
R688	多臓器不全	1		1			
R99	診断不明確			1			1

(8) 委託診療件数 (施設別・入院・外来別)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計			
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来										
NHO 東京病院	6	6	2	2	0	4	0	1	0	3	0	3	0	2	0	4	2	4	1	3	0	4	0	4	0	5	11	41
NHO 村山医療センター	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	24	3	
NHO 埼玉病院	14	3	39	4	5	5	3	2	16	4	22	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	99	20	
公立昭和病院	0	3	0	3	3	1	0	3	2	4	0	4	2	4	0	2	0	3	0	3	0	1	0	1	0	1	7	32
杏林大学病院	0	8	0	1	0	2	0	1	0	1	0	2	6	3	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	2	6	23	
多摩北部医療センター	1	2	1	3	0	3	2	2	25	6	0	1	0	2	1	6	11	0	0	0	0	0	3	1	2	42	30	
複十字病院	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	9	
新山手病院	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	7	
武蔵村山病院	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
東京白十字病院	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7	
秋津眼科医院	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	6	
神原記念病院	0	0	0	0	0	0	3	2	9	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12	4	
永仁会シーズクリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
久米川病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
計	21	23	42	20	8	20	30	13	52	19	22	12	8	14	1	18	13	12	1	12	2	11	1	13	201	187		

\*延べ件数 (件)

(9) 平成27年度から令和5年度 医療社会事業（ソーシャルワーク）統計

① 相談件数

年度	入所者	外来
平成27年度	3,307	322
平成28年度	3,074	325
平成29年度	2,676	316
平成30年度	2,322	291
令和元年度	2,222	280
令和2年度	1,998	135
令和3年度	1,749	140
令和4年度	1,552	103
令和5年度	1,478	114
計	20,378	2,026

② 援助内容

年度	心理社会的問題援助	退院援助	受診受療援助	経済的問題	社会復帰援助
平成27年度	2,263	0	866	1,960	0
平成28年度	2,109	0	86	1,823	0
平成29年度	1,889	0	739	1,721	0
平成30年度	1,672	0	706	1,499	2
令和元年度	1,650	0	720	1,450	1
令和2年度	1,468	0	654	1,295	0
令和3年度	1,173	0	586	1,030	0
令和4年度	1,045	0	524	887	0
令和5年度	998	0	476	967	0
計	14,267	0	5,357	12,632	3

③ 援助方法

年度	面談	電話・書信での相談	電話等での調整収集提供	協議・カンファレンス	記録文書	訪問
平成27年度	2,588	967	990	1,722	1,910	9
平成28年度	2,314	1,172	1,140	1,583	2,045	9
平成29年度	2,116	1,086	1,113	1,331	1,826	6
平成30年度	1,716	956	947	1,243	1,663	6
令和元年度	1,645	1,004	1,035	1,232	1,644	3
令和2年度	1,535	992	974	1,111	1,488	2
令和3年度	1,157	841	749	907	1,282	1
令和4年度	1,013	760	681	848	1,154	0
令和5年度	899	689	701	776	1,082	1
計	14,983	8,467	7,629	10,753	14,094	37

④ 個別外援助

年度	院内カンファレンス・会議	文書・資料作成・整備	教育
平成27年度	20	28	6
平成28年度	27	24	6
平成29年度	27	19	8
平成30年度	40	15	6
令和元年度	28	12	6
令和2年度	24	9	0
令和3年度	23	5	0
令和4年度	29	4	0
令和5年度	32	4	0
計	250	120	32

#### 4. 治療棟診療科受診者数

(上段：延べ人数 下段：1日平均人数)

診療科/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
内科	216	238	252	198	221	185	202	205	223	214	178	201	2,533
	10.8	11.9	11.5	9.9	10.0	9.3	9.6	10.3	11.2	10.2	9.9	10.1	10.4
精神科	57	38	50	51	35	37	45	70	35	47	44	39	548
	2.9	1.9	2.3	2.6	1.6	1.9	2.1	3.5	1.8	2.2	2.4	2.0	2.2
耳鼻科	284	291	232	289	281	255	278	257	255	235	235	192	3,084
	14.2	14.6	10.5	14.5	12.8	12.8	13.2	12.9	12.8	11.2	13.1	9.6	12.6
皮膚科	370	337	296	339	367	293	337	290	266	203	291	209	3,598
	18.5	16.9	13.5	17.0	16.7	14.7	16.0	14.5	13.3	9.7	16.2	10.5	14.7
眼科	92	86	106	93	120	90	97	97	84	87	76	107	1,135
	4.6	4.3	4.8	4.7	5.5	4.5	4.6	4.9	4.2	4.1	4.2	5.4	4.7
外科	21	36	21	24	14	24	20	31	19	38	25	21	294
	1.1	1.8	1.0	1.2	0.6	1.2	1.0	1.6	1.0	1.8	1.4	1.1	1.2
整形外科	108	103	110	101	128	114	99	116	94	100	97	89	1,259
	5.4	5.2	5.0	5.1	5.8	5.7	4.7	5.8	4.7	4.8	5.4	4.5	5.2
泌尿器科	19	17	22	9	19	21	19	16	27	12	11	15	207
	1.0	0.9	1.0	0.5	0.9	1.1	0.9	0.8	1.4	0.6	0.6	0.8	0.8
リハビリ科	102	96	110	122	99	81	109	97	139	103	101	82	1,241
	5.1	4.8	5.0	6.1	4.5	4.1	5.2	4.9	7.0	4.9	5.6	4.1	5.1
歯科	171	175	191	168	193	177	192	184	190	179	180	146	2,146
	8.6	8.8	8.7	8.4	8.8	8.9	9.1	9.2	9.5	8.5	10.0	7.3	8.8
計	1,440	1,417	1,390	1,394	1,477	1,277	1,398	1,363	1,332	1,218	1,238	1,101	16,045
平均計	72.0	70.9	63.2	69.7	67.1	63.9	66.6	68.2	66.6	58.0	68.8	55.1	65.8

## 5. 診療統計関係

### (1) 薬剤に関する概況

#### ① 処方せん発行枚数および調剤回数等

区分	処方せん発行枚数	調剤回数	延べ剤数
内用剤	12,210	17,187	349,781
外用剤		6,658	6,658
注射剤	1,149	1,638	1,770
計	13,359	25,483	358,209

#### ② 医薬品消費額

区分	消費額 (単位：円)
内用剤	15,340,473
外用剤	6,250,521
注射剤	7,895,352
計	29,486,346

#### ③ 製剤

区分	外用液剤 (滅菌)	外用液剤 (非滅菌)	外用固形剤 (非滅菌)	内用剤 (非滅菌)	注射剤 (IVH)	合 計
製剤種類	0	1	4	2	0	7
製剤回数	0	28	56	16	0	100

(2) 臨床検査に関する概況

① 臨床検査業務統計表

施設名：国立療養所多磨全生園

令和5年度

		区分	院内検査件数				外部委託 件数(別掲)		
			入院	外来	請求外件数	総件数			
件 数 統 計	合計	1~8	7,233	16,811	13,501	37,545	593		
	検 体 検 査	尿・便等検査	1A,1B	212	511	618	1341	1	
		髄液・精液等	1C,1Z	0	0	0	0	11	
		血液学的検査	2A~2C・2Z	644	1260	1196	3100	25	
		生化学的検査	3A~3M・3Z	5421	11551	8420	25392	242	
		内分泌学的検査	4A~4H・4Z	74	270	0	344	82	
		免疫学的検査	5A~5K	620	3000	1452	5072	173	
		微生物学的検査	6A~6C・6Z	262	219	1815	2296	21	
		病理組織検査	7B・7C・7D	0	0	0	0	0	
		細胞診検査	7A	0	0	0	0	38	
		機能検査	8A	0	0	0	0	0	
		染色体検査	8B	0	0	0	0	0	
		遺伝子検査	8C・8Z・7Z	0	0	0	0	0	
		生 理 機 能 検 査	合計	9	48	180	244	472	1398
臨 床 検 査 技 師 実 施 件 数	心電図検査等		9A	30	135	244	409	0	13
	脳波検査等		9B	0	2	0	2	0	0
	呼吸機能検査等		9C	0	0	0	0	0	0
	前庭・聴力機能検査等		9D	0	0	0	0	124	0
	眼科関連機能検査等		9E	0	0	0	0	1132	0
	超音波検査等		9F	18	43	0	61	75	0
	その他		9I・9G・9Z	0	0	0	0	67	0
	穿刺・採取料等		9J	253	1059	192	1504	179	0
				総数	計上内容等				
MRI件数		0	臨床検査技師が実施したMRI件数						
内視鏡件数		0	臨床検査技師が介助した件数						
病理解剖件数	7Z	全身	0	脳解剖を含む病理解剖数					
		一部のみ	0	脳解剖を含まないまたは脳解剖のみの病理解剖数 ただし屍検は含まない					
輸血管理部門の取扱い状況			*****						
在庫数	製剤数	3	在庫した血液製剤バッグ数						
出庫数	製剤数	3	輸血管理室から出庫した血液製剤バッグ数						
輸血済み血液製剤数	製剤数	3	輸血が実施された血液製剤バッグ数						
血液製剤廃棄率	%	0.00	自己血を除く血液製剤廃棄率(年度通算)						
病理組織ブロック数	個	0	病理解剖を除くブロック数						
免疫染色枚数(病理)	枚	10	のべ染色枚数(組織および細胞)						
特殊染色枚数(病理)	枚	28	のべ染色枚数(組織および細胞)						
医療機器保守点検件数	件数	129	検査部門内外の医療機器点検件数						
各種チーム医療連携業務	件数	72.00	チーム医療連携業務の件数およびタスク・シフト/シェア業務の時間数						
各種指導・教室等実施状況	件数	0	DM教室、新人職員または臨地実習などのオリエンテーション						
治験取扱い患者人数	患者数	0	採血、生理機能検査、検体前処理等の回数に関係なく1患者1件						
臨床研究取扱い患者人数	患者数	0	院内の倫理委員会で承認された研究に関する扱い患者数						
実習・研修等受入れ状況	単位	1	計算式=受け入れ日数(1日を8時間として)×人数						
			入院	外来	総件数	計上内容等			
ホルター心電図等解析件数	件数	1	2	3	ホルターECG・血圧計、PSG、SASなどの解析件数				
超音波検査等所見記載件数	件数	18	43	61	計測、解析や超音波検査や脳波検査などの所見を記載した件数				
小児・重心・筋ジス・精神患者検査件数	患者数	0	0	0	小児(14歳以下)、重心・筋ジス・精神患者を検査した件数(項目限定)				
検査説明・相談件数	件数	0	0	0	説明あるいは相談に5分以上を要した件数				
鼻腔ぬぐい液等検体採取件数	件数	134	832	966	臨床検査技師が採取した件数				
採血管準備患者数	患者数	489	212	701	検査部門で採血管準備した患者数(職員健診分は除く)				
静脈採血患者数	患者数	0	212	212	検査技師が静脈採血した患者数(職員健診や接触者健診などは除く)				

医事報告用件数
診療件数 + 請求外件数
41,691

② 外部精度管理参加状況

メーカー名/事業名	部門	実施日	参加項目	報告日	評価	修了書
2023年 イムノアッセイTMJ-ILC (BIO-RAD)	免疫	2023/4/21	AFP, CA19-9, CEA, PSA, β2MG, フェリチン, TSH, Free-T3, Free-T4	2023/7/1	期待値内	なし
2023年度 第16回 コレストラスト コントロール サーベイ	生化	2023/4/21	HDL, LDL, CHO, TG	2023/8/16	4項目±1SD内	なし
2023年度 ビトロス サーベイ	生化・免疫	2023/5/17	VITROS全項目 (生化27項目, 腫瘍マーカー5項目, 甲状腺3項目, 感染症3項目, HbA1c)	2023/8/1	評価A (73/78) 評価B (5/78)	有
2023年度『日臨技臨床検査精度管理調査』	生化・免疫・血液・一般・細菌・生理・輸血	2023/6/7	臨床化学・免疫血清・血液・一般・微生物・輸血・生理	2023/6/23	評価A+B (185/187)	有
第165回SQC「尿検査」(シーメンスヘルスケア)	一般	2023/6/12	尿定性	2023/6/30	期待値内	なし
令和5年度(第56回)『日本医師会精度管理調査』	生化・免疫・血液・一般	2023/9/5	臨床化学・免疫血清・血液・一般	2024/2/19	99.5点	有
2023年度『日臨技臨床検査精度管理調査』POCT(感染症項目)	免疫	2023/9/6	インフルエンザ・A群β溶血性連鎖球菌・SARS-CoV-2抗原	2023/10/24	評価A+B (8/8)	有
第166回SQC「尿検査」(シーメンスヘルスケア)	一般	2023/9/20	尿定性	2023/9/30	期待値内	なし
2023年度『都臨技精度管理調査』	生化学・血液・輸血	2023/10/18	臨床化学・血液・輸血	2024/2/22	評価A (86/86)	有
マイクロスキャン研究会主催『第28回菌株サーベイ』	微生物	2023/11/14	微生物	2024/3/30	良好	なし
令和5年度(2023年度)『JCCLS 臨技臨床検査精度管理調査』	生化	2023/11/29	臨床化学	2024/2/19	評価A+B (50/52)	有

③ 研究検査科令和5年度認定資格取得者状況

認定資格	認定機関	取得者
有機溶剤作業主任者	社会法人 労働基準協会連合会	平本研二
特定化学物質作業主任者	社会法人 労働基準協会連合会	平本研二
緊急臨床検査士	日本臨床検査同学院	平本研二
二級臨床検査士：病理学	日本臨床検査同学院	平本研二
二級臨床検査士：血液学	日本臨床検査同学院	望月規央
二級臨床検査士：微生物学 (寄生虫含む)	日本臨床検査同学院	荘司 路 望月規央
日本糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	西巻奈津子
超音波検査士（消化器領域）	公益社団法人日本超音波医学会	渡邊孝浩 立川康則
超音波検査士（循環器領域）	公益社団法人日本超音波医学会	立川康則
超音波検査士（体表臓器領域）	公益社団法人日本超音波医学会	立川康則
第2種ME技術者	公益社団法人日本生体医工学会	立川康則
認定臨床微生物検査技師	認定臨床微生物検査技師制度協議会 (7団体)	荘司 路 望月規央
感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT)	ICMT制度協議会（7団体）	荘司 路 望月規央
感染制御スタッフ（ICS）	四病院団体協議会	望月規央
細胞検査士	日本臨床細胞学会	平本研二
国際細胞検査士	日本臨床細胞学会	平本研二

### (3) リハビリテーション科に関する概況

#### ① 実施件数（PT・OT・ST 部門別）

理学療法部門 (件)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
理学療法		890	899	893	784	792	696	816	723	750	743	771	678	786
物理療法 (ホットパック)		169	170	181	148	149	143	150	142	121	134	119	120	146
物理療法 (その他) ※1		11	10	9	11	9	9	11	8	7	9	9	10	9
ベッドサイド		104	101	89	75	76	74	66	56	89	82	86	60	80
家屋評価		3	2	4	1	3	2	2	1	4	2	6	3	3
カンファレンス※2		0	0	1	0	4	1	0	0	1	1	4	1	1

※1：その他とは、スパーライザー、牽引をさす

※2：病棟、センターで実施される症例カンファレンス、デスカンファレンスをさす

作業療法部門 (件)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
作業療法 (棒体操除く)		285	294	290	263	291	273	319	318	316	282	214	138	274
棒体操 ※3		41	36	41	30	41	20	26	16	16	13	12	5	25
前頭葉J/H		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知機能 ※4		0	2	1	3	2	1	1	1	3	0	1	0	1
合計 (棒体操含む) ※3		326	330	331	293	332	293	345	334	332	295	226	143	298

※3：作業療法部門における棒体操は小集団で実施のため合計件数に含まれる

※4：認知機能検査はOT 2名・ST 1名の計3名のローテーションで実施しているため合算した件数

言語聴覚療法部門 (件)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
言語聴覚療法		136	128	116	120	122	115	133	136	127	133	133	104	125
嚥下機能検診		0	0	0	1	0	0	0	6	14	4	0	0	2

② 新規処方患者件数（PT・OT・ST 部門別）

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
理学療法	4	2	0	0	1	1	0	1	0	0	3	1	1.1
作業療法	2	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0.6
言語聴覚療法	0	1	0	0	0	1	1	2	0	2	2	0	0.8

新患件数	※	2.08件/月
処方件数	※	11.25件/月
実働日数	※	20.25日/月

※：PT, OT, ST 全部門の平均値

③ 患者所属別 実施者のべ件数

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
第1病棟	138	120	99	107	116	58	57	35	58	65	56	40	79
やすらぎ病棟	182	180	166	139	150	152	196	198	176	161	140	85	160
第1センター	422	441	481	425	431	402	480	455	428	439	427	417	437
第3西センター	377	397	385	350	338	306	357	338	372	324	315	209	339
一般寮	189	188	190	170	184	168	185	155	177	167	172	156	175
外来	19	20	13	6	8	8	10	7	10	13	15	17	12
第二共済	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,327	1,346	1,334	1,197	1,227	1,095	1,285	1,188	1,221	1,169	1,125	924	1,203

④ 実施件数（PO 部門）

(件)

区分	年度	令和4年度			令和5年度		
		新規	更新	修理	新規	更新	修理
義肢		1	0	1	0	2	0
装具		49	27	17	51	27	12
自具			58			53	
その他	※1		59			71	
合計			212			216	
調整等	※2		197			183	

※1：家屋改修、褥瘡予防関連、車椅子・歩行器改良など。

※2：処方以外に細かな調整や修理、試作等が増加しているため、計上している。

#### (4) 放射線科に関する概況

##### ① 撮影機器別件数一覧表（入所者のみ）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般撮影	1,420	1,051	1,053	826	808
透視撮影	1	1	11	1	2
CT撮影	308	354	343	296	315
移動撮影	76	48	67	70	63
乳腺撮影	0	0	0	0	0
歯科撮影	140	100	60	50	56
骨密度測定		150	165	166	160
合 計	1,945	1,704	1,699	1,409	1,404

##### ② 外部委託読影件数（入所者のみ）

検査項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入所者CT検査	251	245	205
入所者胸部検診	114	105	87
合 計	365	350	292

##### ③ 放射線画像入出力数（入所者のみ）

*	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
園内画像出力	22	18	23	22	16
園外画像取込	29	21	36	31	24

## (5) 栄養管理室に関する概況

### ① 年間入所者数

区 分		入所者数	分類	比率 (%)	
一	般 食	24,208	A	66.5	A/G
特 別 食	加 算 食	4,870	B	13.4	B/G
	非 加 算 食	7,102	C	19.5	C/G
	特 別 食 小 計	11,972	D	32.9	D/G
喫 食 入 所 者 数 小 計		36,180	E	99.4	E/G
欠 食 ・ 外 泊		220	F	0.6	F/G
総 合 計		36,400	G	100.0	

### ② 年間入所者食数

区 分		患者食数	分類	比率 (%)	
一	般 食	72,412	A	66.6	A/G
特 別 食	加 算 食	14,580	B	13.4	B/G
	非 加 算 食	21,265	C	19.6	C/G
	特 別 食 小 計	35,845	D	33.0	D/G
入 所 者 食 数 小 計		108,257	E	99.6	E/G
禁 食		475	F	0.4	F/G
総 合 計		108,732	G	100.0	

### ③ 行事食、選択食年間実施数

区 分	実 施 数
行 事 食 実 施 回 数	45 回
選 択 食 実 施 回 数	81 回
選 択 食 実 施 人 数	4,022 人

### ④ 栄養食事指導、病棟訪問年間実施数

区 分	合計実施数
個人栄養食事指導件数	5 件
病棟訪問実施人数	41 人

### ⑤ チーム医療カンファレンス年間実施数

区 分	実 施 数
褥 瘡 カ ン フ ァ レ ン ス	11 回
病 棟 カ ン フ ァ レ ン ス	22 回
N S T カ ン フ ァ レ ン ス	13 回
認 知 症 ケ ア カ ン フ ァ レ ン ス	10 回

## 6. 医療事故分析報告

### (1) 内容別件数

内容		レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5	合計
1	薬 剤	243	97	34	0	0	0	0	374
	【注 射】インシュリン関連	8	1	7	0	0	0	0	16
	針外筒・後片付け	2	3	1	0	0	0	0	6
	禁忌薬	4	0	0	0	0	0	0	4
	上位3項目以外	12	10	5	0	0	0	0	27
	【内 服】過少与薬	5	28	2	0	0	0	0	35
	服薬準備・管理	27	4	0	0	0	0	0	31
	処方内容・期間等	26	1	0	0	0	0	0	27
	上位3項目以外	107	22	8	0	0	0	0	137
	【外用薬】管理・保管方法	16	7	3	0	0	0	0	26
	期限管理	8	6	0	0	0	0	0	14
	点眼処置	0	5	3	0	0	0	0	8
	上位3項目以外	28	10	5	0	0	0	0	43
2	輸 血	0	0	0	0	0	0	0	0
3	治療・処置	8	19	6	1	0	0	0	34
4	医療機器等	4	1	1	0	0	0	0	6
5	ドレーンチューブ	0	2	2	0	0	0	0	4
6	検査に関すること	36	7	1	0	0	0	0	44
7	療養上の世話	123	62	119	155	5	0	0	464
	転倒	28	8	86	35	3	0	0	160
	転落	8	6	11	0	1	0	0	26
	褥瘡	0	0	0	0	0	0	0	0
	熱傷	2	1	1	9	0	0	0	13
	表皮剥離	0	0	2	37	0	0	0	39
	皮膚トラブル (褥瘡・熱傷・表皮剥離以外)	10	15	15	71	0	0	0	111
	誤嚥	1	0	2	0	0	0	0	3
	誤食・誤飲	2	2	0	2	0	0	0	6
	転倒・転落以外の骨折	0	0	0	0	1	0	0	1
	上記以外の内容	72	30	2	1	0	0	0	105
8	その他	165	59	4	2	0	0	0	230
	設備・備品等	59	19	1	0	0	0	0	79
	その他	43	14	2	2	0	0	0	61
	情報・データ等	43	11	1	0	0	0	0	55
	上位3項目以外	20	15	0	0	0	0	0	35
合 計		579	247	167	158	5	0	0	1156

### (2) 部署別報告件数

部署	発生件数
第1センター	307
第3西センター	261
やすらぎ病棟	249
チリ羊頭	72
1病棟	68
一般寮支援室	62
薬剤科	37
栄養管理室	28
医局	27
リハ科	12
福祉科	6
その他	27
合 計	1156

### (3) 職種別報告件数

職種	発生件数
医 師	27
看護師(含准看護師)	877
看護助手	156
薬剤師	39
臨床検査技師	6
理学療法士・作業療法士等	13
栄養士・調理師等	31
診療放射線技師	1
その他	6
合 計	1156

#### (4) 発生曜日別件数

	発生件数
平日	943
土・日曜日(休日)	213
合計	1156

#### (5) 発生時間帯

	発生件数
日勤	855
準夜	145
深夜	156
不明	0
合計	1156

#### (6) 患者年齢別

	発生件数
50歳代	0
60歳代	15
70歳代	105
80歳代	345
90歳代	568
100歳以上	46
複数(1事例で2名以上)	9
不明(医療機器等で患者存在せず・職員)	68
合計	1156

## 7. 看護学校関係

### (1) 学生数

( ) 男子再掲

学 年	学 生 数			
	学生定員	現員数 (男子再掲)	寄宿舎生数	通学生数
1年生 (第56回生)	20	10(1)	0(0)	10(1)
2年生 (第55回生)	20	14(2)	0(0)	14(2)

### (2) 応募・入学・卒業状況

回 生	入学年度	応募者	受験者	入学者	入学男子	退学者	卒業者数	倍率
55	R4	自己17 一般24	自己17 一般23	14	2	1		自己8.5 一般1.9
56	R5	学校6 一般31	学校5 一般30	10	1	0		学校1.0 一般6.0

### (3) 一般学歴

年 度	入学者学歴						准看護学校	
	大学	短大	高校	衛生看護科	中学	その他 (大検等)	当該年度	当該年度外
R4	2(0)	1	10(2)			1	12(0)	2(2)
R5	3(0)	0	3(1)			4	10(1)	0

### (4) 年齢別

年 度	回 生	18歳	19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳以上
R4	55			2	2	1	9
R5	56			2	2	2	4

### (5) 出身都道府県別

年度	北海道	青森	宮城	秋田	山形	福島	群馬	茨城	栃木	埼玉	千葉	東京	神奈川	山梨	長野	富山	石川	静岡	愛知	兵庫	大阪	和歌山	岡山	広島	山口	高知	香川	愛媛	福岡	熊本	鹿児島	佐賀	長崎
R4		1							4		9																						
R5									7		2																						1

### (6) 卒業生進路状況

卒業 年 度	卒業 者 数	就 職										未 定	進 学																					
		国立高度医療専門医療センター		ハンセン療養所		国立病院機構		委託 治療 施設	官 公 立 公 的 病 院	法 人 其 他 の 病 院	助 産 師 学 校		保 健 師 学 校	大 学																				
		研 究 セ ン タ ー	循 環 器 病 研 究 セ ン タ ー	精 神 神 経 医 療 研 究 セ ン タ ー	国 際 医 療 セ ン タ ー	国 府 台 病 院	成 育 医 療 研 究 セ ン タ ー								自 施 設	他 施 設	実 習 施 設	実 習 外																
R4	15		3						1			5	1																					
R5	14		2		1				1			3	1														5	1						

### (7) 国家試験合格状況

年 度	回 生	卒業者数	受験者数	合格者数	合格率	既卒者合格率
R4	54	15	15	15	100	
R5	55	13	14	14	100	1 (100)

## 国立療養所多磨全生園年報編集委員会委員

---

委員長	岡 慎一	(副園長)
委員	村上 龍司	(内科医長)
委員	尾崎 正之	(歯科医師)
委員	伊藤 博	(薬剤科長)
委員	高橋八重子	(副看護部長)
委員	土師 宏之	(庶務課長)
委員	渡邊 隆治	(福祉課長)
委員	太田 富雄	(人事課長)
委員	信澤 武	(会計第二課長)
委員	佐藤 陽子	(教育主事)
委員	田澤 理恵	(看護師長)
委員	関根 昇	(庶務課長補佐)

---

---

発行年月	令和6年12月
発行者	国立療養所多磨全生園 〒189-8550 東京都東村山市青葉町4-1-1 電話042-395-1101
発行責任者	鶴飼 克明
編集者	国立療養所多磨全生園年報編集委員会
印刷・製本	社会福祉法人 東京コロニー コロニー東村山印刷所

---

---